舊典類纂

皇位繼承篇

卷九 卷十

御系譜類

五

内閣文庫
番號 和 10239
冊數 6 (5)
函號 144 22

内閣文庫
和書
類 一〇二三〇號
六冊 一架 西函

和書門
類 一〇二三〇號
六冊 一架 二四函

国立公文書館
National Archives of Japan

東京帝國大學圖書之印

皇位繼承篇卷九

議官　福羽美静　撿閲
少書記官　横山由清
大書記生　黒川眞頼　編纂

讓位異例

天皇崩ズト雖ヘドモ仍御存在ノ議ヲ以テ皇位ヲ讓シ事

○後一條天皇

日本紀略　後一條天皇云云長元九年四月六日上東門院彰子ニテ天皇ノ御母ナリ入内依天皇不豫也云云十七日戊刻天皇落飾崩于清涼殿春秋廿九在位廿年去三月以来御體不豫子刻諸卿近衛以璽劍奉皇太子○皇太子ハ敦良親王ニテ即後朱雀天皇ナリ於昭陽舍依有遺詔暫秘喪事以如在之儀今日讓位於皇太弟

榮花物語（きるはわびしとなげく女房）　うち〇後一條天皇ヲイフ　殿御なやみ日を
経て御りらせ給て、四月十五日ごろよりそこはかとなく
なやみ給て、女院中宮渡らせ給て御ものしまいる　云云　つひに四月十
七日夕方ほうせさせ給ひぬれば　云云　位なりの殿御あるまま
ハ変せずいとしづかにうるはしくて、おまるの帝ふなすらも
せ給ひてなり　〇後一條天皇崩ズ、而シテ喪ヲ秘スルコト數日、仍御存生ノ儀ヲ以テ皇位ヲ譲ルト為ス、因テ此ノ條ト天皇疾病ニ因テ皇位ヲ譲シ事ノ條トニ掲ゲ以テ類ヲ分ツ

天皇時變ニ由テ皇位ヲ譲シ事

天下時變アレバ世態モ亦従テ變ズ、天皇為メニ
皇位ヲ避ケコレヲ後主ニ傳ヘ以テ時勢ニ隨
フ、後世コレヲ以テ法ト為ス可カラザルナリ

〇皇極天皇

皇極天皇紀　四年六月丁酉朔甲辰中大兄（〇天智天皇ヲイフ）密謂倉

山田麻呂臣曰三韓進調之日必將使卿讀唱其表遂陳欲斬入
鹿之謀、麻呂臣奉許焉、戊申天皇御大極殿古人大兄（〇天智天皇ノ庶兄ナリ）
侍焉、中臣鎌子連知蘇我入鹿臣為人多疑晝夜持劒而教能
優方便令解入鹿臣笑而解劒入侍于座、倉山田麻呂臣進而讀
唱三韓表文、於是中大兄戒衛門府一時俱鎖十二通門勿使往
来、召聚衛門府於一所將給禄時中大兄即自執長槍隠於殿側、
中臣鎌子連等持弓矢而為助衛、使海犬養連勝麻呂授箱中両
劒於佐伯連子麻呂與葛城稚犬養連網田曰努力急應須斬、子
麻呂等以水送飯恐而反吐、中臣鎌子連嘖而使勵、倉山田麻呂、
臣恐唱表文將盡而子麻呂等不来流汗沃身亂聲動手鞍作臣
〇入鹿ヲイフ怪而問曰何故掉戦、山田麻呂對曰恐近天皇不覺流汗、
中大兄見子麻呂等畏入鹿威便旋不進曰咄嗟、即共子麻呂等
出其不意以劒傷割入鹿頭肩、入鹿驚起、子麻呂運手揮劒傷其

一脚、入鹿轉就御座叩頭曰、當居嗣位天之子也臣不知罪乞無審察、天皇大驚詔中大兄曰不知所作有何事耶、中大兄伏地奏曰鞍作盡滅天宗將傾日位、豈以天孫代鞍作耶、天皇即起入於殿中、佐伯連子麻呂稚犬養連網田斬入鹿臣、是日雨下潦水溢庭以席障子覆鞍作屍、古人大兄見走入私宮謂於人曰韓人〇中大兄皇子及中臣鎌子等ヲイフ殺鞍作臣吾心痛矣即入卧内杜門不出、中大兄即入法興寺為城而備、凡諸皇子諸王諸卿大夫臣連伴造國造悉皆隨侍、使人賜鞍作臣屍於大臣蝦夷、於是漢直等総聚眷屬擐甲持兵助大臣設軍陣、中大兄使將軍巨勢德陀臣以天地開闢君臣始有說於賊黨令知所起於是高向臣國押謂漢直等曰吾等由君太郎〇入鹿ヲイフ應當被戮、大臣〇蝦夷亦於今日明日立俟其誅決矣、然則為誰空戰盡被刑乎、言畢解劍投弓捨此而去、賊徒亦隨散走、己酉蘇我臣蝦蟆等臨誅悉燒天皇記國記珍寶、船史恵尺即疾取所燒國記而奉中大兄、是日蘇我蝦蟆及鞍作屍許葬於墓復許哭泣云云庚戌讓位於輕皇子〇輕皇子ハ即孝德天皇ナリ立中大兄為皇太子〇孝德天皇皇位ヲ継承スルコト、委シク巻三皇子直ニ皇位ヲ継承スルノ條ニ舉グ見ルベシ

天皇事ヲ舉グルニ便ナラントシテ皇位ヲ讓シ事

海内皇命ニ抗スル者アレバ天皇師ヲ出シテ之ヲ討ツ、安ゾ天皇事ヲ舉グルニ便ナラントシテ皇位ヲ避クルノ理アランヤ、此ノ如キハ後世以テ法ト為スベカラザルナリ

〇順德天皇

百練鈔　承久三年四月二日被立三社奉幣使、宣命趣世人成不審歟〇後鳥羽天皇順德天皇兵ヲ舉テ、北條義時ヲ討伐スルノ趣ノ宣命ナルベシ八日内裏己下

御灌佛也、及晩洛中物忩也、重事已相定云云廿日今日有御讓位事、申刻大臣以下参入天皇大炊殿○懐成親王ハ即仲恭天皇ナリ皇太子懐成○懐成親王ハ即仲恭天皇ナリ御閑院被渡劍璽新攝政○道家ヲイフ已下諸卿相從之

神皇正統記下巻　承久三年事ハ後鳥羽上皇○後鳥羽天皇ヲイフおぼしめしたつことありられば俄に讓國しるし順德院身をうらめて合戦のことをもひろひ仕せられんかをうらめしくぞ、特に○懐成親王ニテ即仲恭天皇ナリに讓位あるべしと云云

六代勝事記　同三年○承久三年ナリ四月廿四日上○順德天皇ヲイフ位を太子○太子ハ懐成親王ニテ即仲恭天皇ナリにゆづり給ひぬ、五月十五日に太上天皇○後鳥羽天皇ヲイフ天寶院むくひとしく兵をめしてく、法勝の寺邊廷尉光季を討せられ、追討使をわかちつかはす云云○天皇御父後鳥羽天皇ト俱ニ兵ヲ擧テ北條義時ヲ討タント欲ス、故ニ皇位ヲ讓シコト如ルベシ

天皇上皇ノ意ニ從テ皇位ヲ讓シ事

天皇皇位ヲ避クルノ意ナシ、而ルニ太上天皇諷諭シテ之ヲ避ケシム、天皇因テ上皇ノ意ニ從テ皇位ヲ新主ニ讓ルトイヘドモ而レドモ意釋然タラズ、故ニ當時即チ兵ヲ擧グルニ至ルアリ、或ハ數世ヲ經テ後竟ニ兵革ニ及ブアリ、此條ヤ後世必ズ法ト為スベカラザルナリ

崇德天皇　六條天皇　土御門天皇　後深草天皇

○崇德天皇

愚管鈔巻四　おうくく法皇中ごろきこゝろ、崇徳院の位ゆおもゝ〳〵ゆゝしけるゆゑ、鳥羽院○崇德天皇ノ御父ナリを長寛中納云ゞ娘を殊ゆ最愛と思召て、始ゆは三位せさせておはゝ〳〵しけるあんほゞゆ、をのこと生れさせ給へるを本宮ゆゝ〳〵、崇徳の后ゆは法性寺殿の娘まゐられゝる皇子ゆ院なり、その御子ゆ

よしにて云云　さ定にて譲位は歎しとおぼされければ、崇徳院はさるべしとて永治元年十二月に御譲位有けるに、保延五年八月に東宮にたゝせ給ひしを、その宣命に皇太子とも有んずらんと思召けるを、皇太弟とかゝせられける時ぞ、さいふにも又崇徳院の御意趣にこもりけり

續世繼物語巻三 男山　保延五年にや侍りけん、つちのとのひつじの年五月十八日よになくけうらなる玉のをとこみこや○體仁親王ニテ即近衛天皇ナリ生れさせ給ひぬれば云云　日にそへてめでたくこのかたちども、御こゝろもちなるにつけても、いつしかきさきやうにこそ宮にも位にもとおぼせども、后ばらにこゝちなきはまさしくおはしますを、さし越べきならねばおぼしめし煩ふほどに、當代院崇徳は御子になし奉り給ふことといできて、みな月の廿六日皇子内へいらせ給ふに云云　同七年○保延七年ニテ即永治元年ナリ十二月七日

御年三にて位ゆづりまさせ給ふ○崇徳天皇萬機ニ堪ヘズシテ皇位ヲ讓シニ非ズ、次下ニ保元物語及増鏡ヲ引テ、以テ其ノ情実ヲ示ス

保元物語上巻　保延五年五月十八日美福門院御腹ニ皇子御誕生アリシカバ、上皇○鳥羽天皇ヲイフ殊ニ悦思召テ何シカ春宮ニ立給フ○春宮ニ立シハ近衛天皇ナリ永治元年十二月七日三歳ニテ御即位アリ依テ先帝○崇徳天皇ヲイフヲバ新院トゾ申ケル、先帝コトナル御恙モ渡ラセ給ハヌニ押オロシ給ヒケルコソ浅マシケレ、依テ一院○鳥羽天皇ヲイフ新院○崇徳天皇ヲイフ父子ノ御中快カラズトゾ聞エシ、誠ニ御心ナラズ御位ヲサラセ給ヘリ○崇徳天皇位ヲ讓シ事情コノ文ニテ見ルベシ

増鏡巻一 おどろのした　永治のむかし鳥羽の法皇は崇徳院の御心もゆかぬにおろしまゐらせて、近衛院をすゑまゐらせたまひし時も、御つ○崇徳天皇ヲイフいとゞしうおぼさせ給ひて、その末にかの

まで勅使をつかはして、内侍所・剱璽などをも渡し奉らせ給へ、そのほかいさゝかもそこなはせ給ひて、係元のごとくれもとむきいで給へ、と云云

○六條天皇

續世繼物語巻三　花ぞのゝふほひ　永萬元年六月廿五日位ふつのせ給ふ

○六條天皇ノ即位ヲイフ　序年二よりもつゝせ給ふこと三年ゐやおはしまさゝむ、一院○後白河天皇ニテ六條天皇ノ御祖父ナリおぼしめしおきつることゝ、とうゝ○とうゝハ東宮ナルベシ位を讓申給て○高倉天皇ニ皇位ヲ讓シヲイフをさなくおはしましゐ太上天皇とゝもいとやんことなく、御年二ゐゝ位ふつの勢給ふとゝ是やまゝでめゝおはしましらむ

玉海　仁安三年二月十六日亥刻許、或人告送云来十九日可有讓位事、於閑院可有其事云云十七日未刻許参東宮○東宮ハ憲仁親王ニテ即高倉天皇ナリ相合女房談讓位事、昨日俄出來事云云上皇○後白河天皇ヲイフ有思召事御出家事歟且因之令急給、十九日今日御讓位事云云

子刻劍璽渡御○後白河上皇ノ出家ノ前ニ高倉天皇ヲ即位セシメントト欲シテ、六條天皇ノ讓位ヲ急ガシメタルニテ、六條天皇ノ意ヨリ出シ讓位ニ非ズ、讓位ノ歳天皇御年五歳ナリ、因テ以テ異例ト為ス

○土御門天皇

増鏡巻一　おどろのもゝさ　承元二年ゐゝもなりぬ、十二月廿五日二の宮○後鳥羽天皇ノ二宮守成親モニテ即順德天皇ナリ御冠しなほ、御即位の院法住寺殿なり、この院○後鳥羽天皇ヲイフ限なくこの御ふしき物ゐ思ひ給元させ給へまゝば、ゐゝきゝをゝ世しいくしうしてこのつぎきゝりなほゐ事なのめなるべし、つひゐ四年十一月ゐ御位ふつゝ奉り給ふゝゝ帝○土御門天皇ヲイフ年とゝ十六ゐなりせ給へばいとゞゝ、この御ふるゝ世きゝのゝゝゐ、かゝるをいとゝゐのゝゝあれとおぼされ、永治のむかしの羽の法皇崇德院の御心も

ものゝふおろ〳〵ゆえて、近衛院をもたゝせまゐらせ給ひてそなたゝまふなるまぐ勅使をたゞし〳〵ゐまらせ給ひて門伝所剱璽ゐどをも渡し〳〵ゐまらせ給ひて、さてそなたゝまのもたゝまふこの○させ給へをしぞう〳〵、さてそなたゝまの保元のらぶれも元きいぐ給へをを、氏帝○土御門天皇ヲイフ

ふきいとあてゐおほ間どのなる所女上まを〳〵、おぼ〳〵むそぐぶもねゐおいあらねどもけ〳〵きゐもゐらゐ給をず、いとあへなき事ゐ思ひゆけ宝、承久の院ゐどいまいていとむゐいくおぼされけを○土御門天皇ノ災異ヲ以テ皇位ヲ皇太弟守成親王ニ譲ル、此ノ文ヲ按ズルニ天皇災異ヲ以テスル者ハ、恐クハ辞ト為スノミナラン

六代勝事記　阿波院天皇○土御門天皇ヲイフ　ハ隠岐院○後鳥羽天皇ヲイフ

第一段子云云元立位十二年のあぐ、天地変美ゐく西陣時をあゆまゐさぞ國をさゐり民ゆ位のなり、太上天皇○後鳥羽天皇ヲイフ

威徳自立位楽ゐほゐりて美方位接育を忘れ給ひ、又近臣寵女ゐ孫つゐ〳〵て四海の清濁をわゐざるゆゑゐ、今上陛下の○土御門天皇ヲイフ　常運いまぐきはゐり給そぐるをおゐ〳〵ゐを、茅洞の風秋位し〳〵茨山位月新さぐ〳〵ゐりき○土御門天皇災異累ニ臻ルヲ以テ辞トシ、皇位ヲ順徳天皇ニ譲ルトイヘドモ而レドモ其意已ムコトヲ得ズシテ後鳥羽上皇ノ意ヲ奉ズルニ在リ、六代勝事記ノ文見ルベシ、

承久軍物語上巻　承元四年十二月一日上皇○後鳥羽天皇ヲイフ　第三の皇子守成位ゐ○順徳天皇ヲイフを帝位ゐつけ給ひて、第一の帝子○土御門天皇ヲイフをゐ出〳〵と免奉ゐら〳〵め給ゐ、ゐれゐ嵯位帝寵愛ゐよつてゐり、されば一院○後鳥羽天皇ヲイフ　新院○土御門天皇ヲイフ　帝中ゐゐらぶとぞ沙元〳〵

○後深草天皇

増鏡巻四　ゐりぬゐ　ゐ位年○正元元年ヲイフ八月廿八日東宮○恒仁親王ニ

テ即亀山天皇ナリ十一月ニテ序元後ノ後ハ、序いとなく恒仁ときこえ、世の中やうゝほのぼのさゝやかなる事あれば、序つゝ〇後深草天皇ヲイフ
あのぐ心ぼそうおぼされて、よゐ月まゝづからなる序物語
ぶつのぐふ、内侍所の序拝殿数をこのぞへられられバ、五千七千
四日なりけるをうけ給はるに、辛の内侍
ふ代といへば五うきゝひゝ七千ふあるる日かぞを祈いわれど、
かゝゝ十一月廿六日おもゐるさせ給ふり、宮ぶりゝきさへのそ
れふゐうちゝゝぎて物がなゝくゝえられば、伊勢ぶちごぶあひも
思をぬゝゝぎを、といふりんふるとさへ今ぶとちゝてひぼそ
くおぼゆ、うへ〇後深草天皇ヲイフもおぼゝゝまうけ給へれど剣璽
のいぐさせ給ふど常ぶり幸ふ序見をはなれざりつる
ならひ、十三年ぶ序なぐを引わるゝ程いとのられふ忍び
ぐぶ序ゝきをこの角ゝ宮ゝ、毎内侍

いまのそとゝゝありゐる雲ぶちぐるれバ心のうちぞかきくらし
ける〇後深草天皇ノ皇位ヲ亀山天皇ニ譲シハ、御父後嵯峨天皇ノ意ニ従ヒシコト、増鏡ヲ見テ知ルベシ因テ此ノ條ニ載ス

譲位非例

天皇權臣ノ奚スルニ従テ皇位ヲ譲シ事

後宇多天皇以来數世權臣跋扈ス、天皇皇位ヲ新主ニ傳フルニ必ズ其ノ意ニ従ハザルヲ得ズ、是ニ由テコレヲ觀レバ、天皇ヲシテ徒ニ神器ヲ擁セシムルナリ、後世必ズコレヲ以テ法ト為スベカラザルナリ

後宇多天皇　後伏見天皇　花園天皇

〇後宇多天皇

正應天皇御記　弘安十年十月廿一日今日譲位也〇後宇多天皇ノ皇

位ヲ伏見天皇ニ譲ルヲイフ去十二日自関東依申也○関東ハ北條貞時ヲイフ

増鏡巻六光のなミ何とゝ過ゆくゝ不ぞふ弘安も十年ふなりぬ、

その帝○後宇多天皇ヲイフ位ふつさ給ひて十三年ばかりふなをぬらん、

本院○後深草天皇ヲイフ行ぐほふおぼさるらんといとほしくおぼ

さるゝなるゝ、例行末より奏せる事なれば○東ヨリ奏スルトハ北條貞時ノ奏スルヲイフ亀山天皇ヲイフ行幸のさゞめきは、心細う

ものしめしなやむべし云云よろづあとのぞおぼさるゝほどに

なれど、その年の十月ふ○弘安十年十月ナリおぼさせ給ふ○後宇多天皇ノ北條貞時ノ奏ニ従テ皇位ヲ伏見天皇ニ譲ルヲイフもとのうへ○後宇多天皇ヲイフハ世

一ツぞなりにせ給ひける、内ゝ上もいとうるはしくうつ

くしくさぐよのふ内才もかしこうめで

たくおぼしたる中に、譲や位

ゝおぼしませば、内ゝ上のうへ

えゝなどおぼされつるふ○亀山天皇ノ院中ニ於テ政務ヲ判決セルヲ、今ニ至テハ御子

ノ当今後宇多天皇ニ譲ラシト思シ召シタルヲイフナリいとあへなくうつろひぬる世を、そ

げ給ふ新院いとおぼさるゝべし、春宮○熙仁親王ニテ即伏見天皇ナリ位ふ即位

ひぬれば、天下本院○後深草天皇ヲイフふ知ぬ、世の中知

らぬ人はなくもかゝるきはめぞなりられける

北條九代記巻十一　弘安十年十月廿一日京都ニハ主上○後宇多天皇ヲイフ御譲位ノ御事アリ、主上今年僅ニ廿一歳ニナラセ

給フ、亀山ノ新院モ只今ノ御譲位ハ餘ニ早速ノ御事ナレバ、

イマダ遅カラズ御残リ多クオボシメシ、主上モ本意ナラズ

ト聞エサセタマヘドモ、後深草ノ本院○伏見天皇ノ御父ナリ強ニ待兼

サセタマフベシ、只疾御位ヲユヅラセタマハンハ然ルベキ

太平比和ノ御基タルベキ旨、關東ヨリ奏シ申セバ、御心ノマ

ゝナラズ、俄ニ御譲位有テ東宮熙仁御位ニツカセタマフ

○後伏見天皇

増鏡巻七（第十三）　又の年はむ月の頃（○正安二年正月ナリ）内侍所注連の
おもはへるもいとあるべきことゝ思びてさめく程
ゝゝなれ、あるゝ社侍使（○北條貞時ノ使者ナリ）のぼるゝ学社中さわ
ぎて、禅林寺殿見奉り給ふ世ふゝや（○禅林寺殿トハ亀山天皇ノ皇統ヲイヘルニテ、コヽニテハ後二條天皇ヲサシテイヘリ）正月廿一日春宮（○邦治親王ニテ即後二條天皇ナリ）位ふ
つゝ移給ぬ、ありあ社侍つ（○後伏見天皇ヲイフ）十四ゆゝ太上天皇社
尊号あり

北條九代記巻十一　正安三年正月鎌倉ヨリ使節トシテ隠
岐前司時清山城前司行貞上洛シテ、主上ノ御位ヲ下シ奉リ
（○主上ハ後伏見天皇ヲイフ）東宮（○東宮ハ邦治親王ニテ即後二條天皇ナリ）ヘヨヅリ奉リ給フ、
主上今年イマダ十四歳御在位ワヅカニ三年ニシテ、何ノ御
事モオハシマサヾリケルヲ押オロシ奉ルコト、天道神明ノ
照覧モイカヾ恐ロシトヅ心アル人ハ申合レケル、太上天皇

ノ尊號蒙フラセタマヒケリ、王道久シク廢レテ政事ニ付テ
ハ萬叡慮ニ任セラレズ、天下ハコレ天子ノ天下ニモアラズ、
又天下ノ天下ニモアラズ、關東ヨリ計ラヒ奉リ、武家ノ天下
トナリケルコトヨト申ス人モ多カリケリ、邦治親王御位ニ
ツキタマフ、御寶算十七歳、二條太政大臣兼基公關白タリ、龜
山法皇後宇多上皇スデニ院中ニシテ御政務ヲ聞シメス

○花園天皇

増鏡巻八（紋の山）　文保二年二月廿六日御つ（○花園天皇ヲイフ）
させ給ふ、春宮（○尊治親王ニテ即後醍醐天皇ナリ）
へべ、社ゝなるつるゝめで社ゝ
皇ニ譲シコトハ、伏見天皇御在位ノ時、北條貞時ガ計ラヒヲ以テ、強テ定メタル例ニ因ルニテ、花園天皇ノ意ヨリ出タルニ非ズ、次下ニ北條九代記ヲ引テ粗其ノ事情ヲ示ス、尚委シクハ巻六定策非例ノ條下ナル権臣両皇統迭立ノ議ヲ建テ定メテ治世ノ期限ヲ十年トセシ事ノ條ヲ見ルベシ

北條九代記巻十二　文保二年二月二十六日京都ニハ御譲位ノ御事アリ、主上○花園天皇ヲイフ今年二十二歳、春宮○尊治親王ニテ即後醍醐天皇ヲイフハスデニ三十歳ニアマリ給フ、コレハ後宇多院第二ノ皇子尊治親王ト申奉ル、御母ハ談天門院、参議忠繼卿ノ御女ナリ、皇子スデニ春宮ニ立テ御年三十一歳ニナラセ給ヘバ、後宇多法皇ヲ初メタテマツリ、ソノ方ザマノ人々ハ待兼サセラルベシトテ、關東ヨリ計ラヒ申テ、同廿九日尊治親王御位ニ即給フ

遜位

天皇事故アリ、已ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避ク、今是ヲ記シテ遜位ト為シ、以テ譲位ト別ニス、文字上ニ於テ論ズレバ、譲位ト遜位ト別ナシ、百練鈔ニ鳥羽天皇云云保安四年正月廿八日遜位ト記セリ、鳥羽天皇ノ遜位ハ即譲位ナリ、以テ知ルベシ○神皇正統記巻五高倉條云云もゝせをいとはせはしける日ゐとぞ、トアリ、コレモ亦譲位ヲ遜位トイヘリ　而シテ今特ニ譲位ト記セズシテ、遜位ト記スル者ハ、唯天皇事故アリ、已ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避クルヲ認メシメント欲スルノミ、抑天皇事故アリ已ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避クト雖ヘドモ、而レドモ其ノ神器ヲ以テ新主ニ傳フルガ如キハ遜位ノ例ニ非ズ、今遜位ト稱スル者ハ、天皇事故アリテ皇位ヲ避ク、其ノ神器ニ於テハ受クル者無シ、是ヲ遜位トイフ

陽成天皇　花山天皇　仲恭天皇

○陽成天皇

陽成天皇紀　元慶八年二月四日先是天皇手書送呈太政大臣○基經ヲイフ曰朕近身病數發動多疲頓、社稷事重神器亟守所願速遜此位焉、宸筆再呈肯在難行、是日天皇出自綾綺殿遷幸二條院、二品兵部卿本康親王右大臣從二位兼行左近衛大將源朝臣多云云扈從、文武百官供奉如常、但少納言不奏給鈴之狀諸衛不稱警蹕○常ノ行幸トハ異ナルヲイフ神璽寶劍鏡等依例相從、驛鈴符內印管鑰等留置承明門內東廊、令參議正四位下行左大辨兼播磨守藤原朝臣山陰從五位上行少納言兼侍從藤原朝臣諸房左少辨正五位下安倍朝臣清行等留守焉、會文武百官於院南門○院南門ハ二條院ノ南門ナリ詔曰現神大八洲御宇日本根子天皇加御命良萬止宣御命乎親王等王等臣等百官人天下公民衆聞給ヘ止宣食國乃政乎永遠聞食倍喜乎御病時々發已止有天萬機滯止久成奴天神地祇之祭乎闕怠已有奈牟乎加止危義畏利念保之天

皇位乎讓遜給天別宮尓遷御坐奴止宣御命乎親王等大臣等聞給部○陽成天皇ニ條院ニ遷御アリテ皇位ヲ讓ルノ詔アリ、而シテ受禪ノ君未タ定ラズ、サテコレ迄ハ天皇ノ意ヲ宣セシナリ、天皇ノ意実ニ此ノ如クナリシニヤ頗不審ナリ、因テ次下ニ諸書ヲ引テ其ノ情実ヲ示ス承詔天○陽成天皇ノ詔ヲ臣下ノ承ルニテ上ノ文ヲ受ケタルナリ恐義畏母國典尓准天太上天皇之尊號乎進留○群臣奏シテ陽成天皇ニ太上天皇ノ尊号ヲ上リシナリ、然ルニ大鏡裏書ニ元慶八年三月号ハ光孝天皇即位ノ後上リシニ非ズ又皇位波一日母不可曠一品行式部卿親王波○時康親王ニテ即光孝天皇ナリ諸親王、中尓貫首尓御坐又前代尓無太子時尓波如此老德乎立奉之例在加以御齡母長給比御心母正直久慈厚久慎深、御坐天四朝尓佐仕給天政道乎母熟給利百官人天下公民尓天區歌所飯咸無異望故是以天皇璽綬乎奉天天日嗣位定奉良乎久親王等王等百官人天下公民衆聞給部宣時○承詔ヨリ以下コレ迄ハ、群臣相議シテ親王ヲ迎ヘテ天皇トスルヨシノ宣命ナリ中納言在原朝臣行平於庭詣之、百辟群寮並立侍焉、事畢

王公已下拜舞而退、於是以神璽寶劍鏡等、付於王公、即日親王公卿歩行奉天子神璽寶劍鏡等、今皇帝（○光孝天皇ヲイフ）於東二條宮、百官諸仗圍繞相從、二條院與二條宮相去東行數百歩、是夜皇太后（○陽成天皇ノ御母藤原高子ナリ）出自常寧殿遷御二條院焉

大鏡巻二　太政大臣基経の御子長良中納言の三郎は云々陽成院おはしませ給ひしべき定まりぬさきにうせ給ひ、融の御ぶやんとなりて信ふつりんせいんの深くく近く王孫をとゞめば融らも信ふまとといひいでらるるを、この大臣（○基経ヲイフ）王孫なれど姓を給はりてくだらんとてつくれて、信ふつきなる事はなほ申出給へまゝに、さもなる事なれど、この大臣さぶらふよりて小松の帝（○小松帝ハ即光孝天皇ナリ）を信ふつき給へるなり（○光孝天皇ハ陽成天皇ノ讓ヲ受ケシニアラズシテ、基経等ノ勸進ニ從テ皇位ニ即キタルヲイヘリ、此ノ條宜シク皇子群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事ノ條ト合觀スベシ）

愚管鈔巻三　陽成院九ヶ年ましまして、八年ましの間、昔は武烈天皇は如く不斜淫ましましはしまして、ありはしまして、ゆくすえをぢ、昭宣公基経は、摂政ましまして諸卿群議ありて、是をいとゞ國王やうく國をも治ましまはしまはそべきとなんおもしまして、やうく〜ふ定あるふ、仁明の御子ましまして時康親王（○光孝天皇ヲイフ）やうく、式部卿の宮ましまして、ましまはしまけるを迎へとりまゐらく、信ふはけまゐらせられける、是を光孝天皇ましまし

宇治大納言物語下巻　関白殿（○基経ヲイフ）をはじめて世にうせなんと歎あひ給へどのなりぬ、いさるものどもを世をいつゝめて、くちなしなふ性をいくらともなく悪ませ、猫ふ嵐をやうとを、犬猫などをたくこのもしうて、敷させ給ふどふあるう、まうてふる人を木ふ引ぼせさうせ給へうて、うちとろさせ給ひて、いくらともなく人死ぬるふ、関白ましまして昭宣公などさうして、

そゝすぎなゝ、信をおろゝ一条ゝをむとおぼゝて、さゝを
ぬぎて宮ゝちゝ又近き侍門の侍ぞう共、源氏ゝ宋語へる
などをゝとりき語ふゝ、丈夫心えゝよく見えむとつくろひ
きゝめさ何ゝ語へを、つきゝゝいみゝさを、とれゝゝろゝ
見もよゝもゝゝとぼゝく、ゝ書給ふ○時康親王ノ宮ニテ即光孝天皇ナリ
へ参りて山中させ給へば、さ少ゝせ給ぬとて、ちばゝ行て
入給りて、とみゝ出させ給ちば、けごのく他ゝ語ふとおゞを
程ゝぞ出給へる、ふゝめき神さびて侍重衣も美ゝ立ゝを、
ちゝり新なるさゝゝて、何事ゝ立ゝせ給ひゝゝぞ出て、
ものゝ語ひゝるさゝもよゝおゝりまを、信ゝつせ給ひゝらんゝ、
かゝゝおゝまゝなんと見を給ひて、かゝゝとゝ語へを、
いつぞゝと問ゝを語へば、程へばゝゝさふらひぬ参られがあさ
て日もよく侍へ、ゝ日ゝて語ひぬ、さて内ゝ参り語へ

れば○基経ノ内裏ヘ帰リ参リタルナリ木ゝ人をのぼせて、うちゝろゝたるを
無ゝて、ゝ笑ひ我もわゝひ入て、おはゝます、いとなさまゝ、
おゝゝ○基経ヤ語ふ、つまゝゝゝ侍へがくゝべ馬もぶきん中
ゝ侍ゝゝ、行幸ゝて所浄をべさゝ中語ふゝ、いゝゝゝ
ゝゝゝを語ひて、いつぞゝゝと作られば、あさて中語へば、
ゝゝとびて、いつゝかと侍野語ふ、生日ゝ成ぬれば、かんぞちめ
殿上人ゝ参りて、よきゝゝをべゝゝゝゝて、年老い未なる
まゝさゝゝつゝゝまつまて、内宋流といふ所興ゝせて、おゝ
ゝ奉ゝゝ、さてゝほゝを物狂ゝゝゝ人をゝゝ殿ゝを語ひて、世話
ゝを侍ひぬべられば、おゝゝゝ参らせつるとゝかけゝゝを吟せ
語ひて、無ゝゝきゝゝゝゝ参ゝ、おゝゝゝを参ゝを語ひさ
ゝりける

○花山天皇

日本紀略　花山院云云寛和二年六月廿三日庚申、今暁丑刻天皇密々出禁中向東山花山寺落飾、于時藏人左少辨藤原道兼奉従之、先于天皇密奉劔璽於東宮○東宮ハ懐仁親王ニテ即一條天皇ナリ出宮内云云年十九

榮花物語　中納云なども侍者亜ぐちふつゝうはつり給はぬぞふ、寛和二年六月廿二日夜○廿二日トアルハ誤ナリ廿三日ノ夜トアルベシ侍ふうせさせ給ひぬとのゝたまるゝうちのそゝら給殿上人かんさちべいやもたち衛士仕丁ふ亟るまて、殊る慶なくりさめきるふ、四条ふ出たまゝまさべ、おほきおとゝよりはゝ兄徳卿殿上人はあゝとゝ多り集りて、盞をさゝ給るふ、いづくふこのゝおゝしはさん、あさましうのらゝて、一天下あゝりて歎給ふちふおさゝさりゝ給ふしふ

大鏡巻一○大慈光院本　寛和二年丙戌六月廿二日の夜なさまくいし事多、人多も知られさせ給ちで、ゝそのふ以花山寺ふおゝしゝゝ、侍出家入道せさう勢給へまゝとゝ、侍年十九、治天下二年、ゝ後廿二年ぞ出はゝまゝ、ありれふりけるとゝ、おなをおはすまゝける夜ハ、藤盞持人の住屋のゝちり出させ給ひけるふ、有明月のいゝゝうければ、見證ふとゝありられ、いゝゝ出ゝ給ゝと作せられけるを、うゝゝとゝ給へふべき世う侍ゝば、神璽寶物渡りいぬるいと、栗田殿のさゝゝゝ給ひけるふ、いゝゝ帝出させおはすまゝりけるさきふ、手づのゝとゝて赤ふ○東宮ハ懐仁親王ニテ即一條天皇ナリ乃侍方ふ渡しまゝて、ければ、還至いゝ給へ給ちん事いあるゝゝおゝて、ゝかゝさせ給ひる事ぞ、さやけさ新まで四おぼゝめける程ふ、月のおゝて ふ和むゝ雲給こゝりてゝゝゝがりければ、ゝゝ出家朱鈍ゝる なゝけゝと作せられて、あゝゝ

出させ給ふ云云花山寺ふかくはいりておこ
ろさせ給ひてのち、栗田殿いはのをくにぞ
ぬぎ、今一度えをそめかくと栗田殿にて、必ずあらんと申給ひ
ければ、我をばたのまなりとてこそ法ゐ授られ、なのれ
ふこのゐきさとなり　○文ニ天皇手ヅカラ神器ヲ取テ東宮ニ渡スト云フルハ、人ヲシテ渡サシメタルナリ、其ノ人トイフハ恐ラクハ藤原道綱ナラン、其ノ故ハ古鈔本、所謂道遜院殿本ノ栄花物語花山ノ巻ノ書入ニ、寛和二年六月廿二日天皇密以左近少将藤原道綱被奉璽劔東宮御所凝花舎俄於東山花山御出家、召権僧正尋禪出家入道御名入覚トアリ、

○仲恭天皇

百練鈔巻十二　承久三年七月八日云云今日一院○後鳥羽天皇ヲイフ
并修明門院於鳥羽殿御出家云云主上○仲恭天皇ヲイフ密々渡御
九條殿云云○仲恭天皇ノ遜位ヲイヘリ、是ノ時ニ當テ天皇神器ヲ新主ニ傳ヘテ、而シテ後位ヲ避ケタルニ非ズ

皇年代略記下巻　承久三年辛巳四月廿日甲戌受禪四七月九日辛卯廢之四神璽鏡劔弁置閑院密令退九條第給未即位○天皇神器ヲ弁テ九條第ニ退クトアルニテ、遜位ノ情実ヲ知ルベシ、未即位トハ天皇未ダ即位ノ札ヲ行ハザルヲイフ

東鑑巻廿五　承久三年七月九日云云先帝○仲恭天皇ヲイフ於高陽院皇居遜位密々行幸九條院、戌尅新帝○後堀河天皇ヲイフ自持明院殿被還御閑院御車其間自持明院迄于禁裏軍兵警衛路次云云

神皇正統記下巻　廃帝諱懐成、順徳の第子、母は東一條院藤原氏の女、故摂政太臣良経は女なり、兼久三年書は頃より、上皇思しめしたる事ありければ、位を譲国し給ふ、順徳御死をこうるをもて合戦のよをもて、ひとの心ゆかせ給ふ御ものごとも中、彰子○懐成親王ニテハ讓位ナリ即仲恭天皇ナリ
しらせ、即位登壇までもなくて軍やぶれしかば、外戚摂政道家の大臣は九條の第へおのれさせ給ふ、之程は

神器をば閑院の内裏ふかくそなへ置奉り、譲位ありしのち七十七ケ日ありて、ようやく神器を伸人殿ひめ〜のどる、日嗣ふかくかへりたまら〜ず、仮ちく殿ありて皇位ふかくそなへ給ひ

○仲恭天皇自皇位ヲ遜レタルヲイフ、然ルヲ増鏡巻一（新島ニ古ク、七月九日内門をもおろしたてまつりき、この卯月のとよ、内裏位とてめでたうりしふ巻のやうあり、七十餘日ありて、ほぞに十ぬ日とるやや位ふおはそるれいありけるとゝ、ならのふみよみしに人のいひしらいちをる、うやうのうぎれやありけむ、トアルハ自他ノ乱ニヨリテ自ラ御位ヲ遜レタルナレバ、打見ルノ所ハ北條氏ノ強テ皇位ヲ降シ、如クナレバ、此ノ如クモ記セル者カ

北條九代記巻六、懐成親王○仲恭天皇ヲイフハ新院○順徳天ノ御ユヅリヲウケサセ給ヒケレ共、御即位ノ式モ調ノハズ、程ナク此乱○兼久三年乱ヲイフアリシカバ、三院トモニ遠島ニウツサレサセ給ヘバ、關東ヨリ計ヒ申テ僅カニ九十餘日ニシテ御位ヲオロシ奉リ、九條ノ廢帝ト申テ、王代ノ數ノ外ニゾオハシマス○仲恭天皇自皇位ヲ避ク、後堀河天皇皇位ニ即ク、而シテ後仲恭天皇ヲ以テ降シテ親王ト為スヲ聞カズ、然ラバ則唯々先帝ト称セシ欤、兼久軍物語ニセんていト見エ、皇代暦ニハ九條先帝ト見エ、皇紙紹運録ニハ九條廢帝ト見エ、皇代記ニハ廢帝ト見エ、而シテ又天皇ヲ以テ太上天皇トセシヲ聞カズ

廢位

廢位トハ天皇事故アリ、前天皇因テ皇位ヲ廢スルヲイフ、陽成天皇仲恭天皇ノ如キハ、自ラ皇位ヲ避ケシナリ、故ニコレヲ以テ廢位トハイフ可カラザルナリ

○淳仁天皇

淳仁天皇紀　天平寶字八年十月壬申高野天皇○孝謙天皇ヲイフ遣兵部卿和氣王左兵衛督山村王外衛大將百濟王敬福等、率兵數百圍中宮院、時帝遽而未及衣履、使者促之數輩、侍衛奔散無人可從、僅與妃家三両人、歩到圖書寮西北之地、山村王宣詔曰

掛末久畏朕我天先帝乃御命ノ○聖武天皇以天朕仁勅之天下
方朕子伊末之仁授給事乎之云方王乎奴止成止奴乎王止云止
汝乃為末仁假令後仁帝止立天在人伊立乃後仁汝乃多無
禮之不従奈賣久在人乎帝乃位仁置許止不得又君臣乃理
仁従天負久浄岐心乎以天助奉侍之帝止在已止得勅岐可
久在御命乎朕又一二乃豎子等止侍天聞食天在然今帝止之
侍人乎此年已呂見仁其位仁不堪○淳仁天皇ハ其ノ位ニ堪
セシナリ是乃味仁不在今聞仁仲麻呂止同心之天竊朕乎掃止謀利家又
竊六千乃兵乎發之等等乃比又七人乃味天闕仁入牟止謀利家精
兵乎之押之天壞亂天罰滅止云利家故是以帝位方退賜天親王
乃位賜天淡路國乃公止退賜止勅御命乎聞食止宜○孝謙天
淳仁天皇ノ位ヲ廃シテ、更ニ親王トシ、淡路公ト為スヲイフ、
コノ淡路公ハ、姓氏ニ上毛野君下毛野君ト云フトハ別ニテ、
藤原不比等ヲ淡海公ニ封ズナド同例ナリ、姓氏ト混ズベカラズ
事畢将公及其母到小子門、

庸道路鞍馬騎之右兵衛督藤原朝臣藏下麻呂衛送配所幽于
一院、勅曰以淡路國賜大炊親王國内所有官物調庸等類任其
所用、但出舉官稲一依常例、又詔曰舩親王波九月五日尓仲麻
呂止二人謀家良久書作豆朝庭乃咎計豆将進等謀家利又仲麻呂
何家物計夫流尓書中尓仲麻呂等通家流謀乃文有是以親王乃名
波下豆諸王等成豆隠岐國尓流賜布又池田親王波此夏馬多
集天事謀止所聞支如是在事阿麻多太比所奏是以親王乃名
波下賜天諸王等志豆上佐國尓流賜布詔大命乎聞食止宜○仲恭天
皇ノ御兄舩親王池田親王モ亦罰セラレテ、親王ヲ降シテ諸王トナスヲイヘリ
水鏡下巻　十月九日ヲ上天皇○孝謙天皇ヲイフ

裏をかくみ給ひしつゝ、宮のうちゐ候しゝ人〻皆ゆゝ失せゐ
しのゝば、帝○淳仁天皇ヲイフ御母又そはつのまつをと人二三人ばかり
をゐひ具して、歩行みて、國書寮の方ゐおはして高野

へりしふるそへ、少納言むのひきまろ、位おろしまるゆゑに宣命をば讀うけ奉りしかそ、そなたにとゝまれ位をゆるしたまふ位をゆるしたまふ、仲丸と同じ位をゆるしたまふ、春をそとなりんとはうを給ひうを、きりれば帝の位を退け給ひて親王の位を給ふとて、淡路の國へ流しまゐらせ、位をゆるしたまふ事なり

○此ノ書ニ淳仁天皇ヲ淡路廢帝ト記セリ、續日本紀ニハ廢帝ト記セリ

神皇正統記中巻　第四十七代淡路廢帝　云云戊戌の年即位、天下治定ゆゑ淡路の事六年、事有て淡路の國へうつされ給ひき

皇代記上巻　淡路廢帝云云　天平寶字八年甲辰十月退帝位

賜親王号年サ三　為淡路公賜淡路國高野天皇重祚

皇年代略記上巻　廢帝云云　天平寶字八年甲辰十月日退帝位

賜親王號為淡路公即賜當國サ二　天平神護元年乙巳九月薨サ三

廢位一年　稱淡路廢帝○廢位ハ前天皇アリテ、當天皇ノ皇位ヲ廢スル、淳仁天皇即チ是ナリ、淳仁天皇ノ皇位ヲ廢セラルヽト、仲恭天皇ノ自ラ皇位ヲ遜ルヽト異ナル所アルコトハ、各條ニ引ク所ノ書ヲ認メテ知ルベシ、而シテ諸書ニ並ニ廢帝ト称スル正シカラズトイフベシ

廢位異例

廢位異例トハ、天皇事故アリ、前天皇因テコレヲ廢スルヲイフ、今此ニ其ノ異例ノ名ヲ設クル者ハ、天皇在テ別ニ帝ヲ稱スル者アリ、天皇乃チ其ノ帝ヲ稱スル者ノ位ヲ廢シ、而シテ後太上天皇ノ號ヲ上ルヲイフ

光嚴天皇　崇光天皇

○光嚴天皇

皇年代略記下巻　光嚴院云云　正慶二年三月十二日主上光○

嚴天皇ヲイフ　幷両院○後伏見天皇ヲイフ　幸於六波羅内侍所同渡御、以北方為皇居、聞二月以来、伯州主皇ヲ後醍醐天出御、天下擾乱之故也、當所探題仲時時益奉保護了五月七日六波羅城敗績、仲時等奉伴主上上皇○光嚴天皇後伏見上皇花園上皇ヲイフ　以下赴東國於江州番場仲時時益等自殺、三主以下御逗留　同十日遷御伊吹山、太平護國寺暫以此所為御在所両院以下又同御此寺、此間為伯州詔命奉退皇位元号又廢正慶二年更復元弘三年　同七月八日自江州還幸於京師、十二月十日被獻太上天皇尊號、同日被獻隨身兵杖○光嚴天皇ヲ以テ太上天皇ト為スヲイヘリ

皇代暦下卷　光嚴院云云　正慶二年三月十二日依天下亂行幸六波羅、五月十日赴東國、同廿五日以後廢帝、同年十二月十日太上天皇尊號

神皇正統記下卷　官軍力を得しまふ、五月八日都ふるる軍○北條氏ノ兵ヲイフ　皆やぶれて、あづまへ心ざして落行しふ、去院○後伏見花園両院ヲイフ　新帝○光嚴天皇ヲイフ　同ゝくこゝをさりて、江州國

馬場ちらふ慶ふて、公家○後醍醐天皇ヲイフ　にむかしのごとく車ぢ出ふられば、武士ども戰ふまぐるまあく、多くも自滅しぬ、両皇新帝ども都ふかへり奉り、官軍ちれを守護ゆき、かくて都より西ざま程なく靜まりぬと沙汰ども聞れば還幸せさせ給ふ○後醍醐天皇京師ニ還幸アリシヲイフ　諸ふめぐらの事ふなん云云いつしの賞罰ぢちぐ色ぬりしふ、両院新帝をばあざむき給ひて都ふ住ませまりしけふ、されど新帝ども偽ども儀ふて、正位ふは用ゐられざで、改元して正慶といひしをも、本ぢぐ元弘と号せらる

太平記巻九　去程ニ五宮ノ官軍ドモ、主上○光嚴天皇ヲイフ　上皇○後伏見花園ノ両上皇ヲイフ　ヲ取進セテ、其日先長光寺ヘ入奉リ、三種神器幷玄象下濃二間ノ御本尊ニ至ルマデ、自五宮ノ御方ヘゾ被渡ケル

保暦間記下巻　先帝○後醍醐天皇ヲイフ　攝津國西ノ宮迫御上有リ、同六月四日東寺ヘ入セ給テ、同五日ニ威儀ヲ調テ則内裏ヘ入セ給テ、重祚有キ○重祚トセシハ非ナリ重祚ノ部見ルベシ先帝位ニ付セ賜ヒケレバ、後伏見院并先御門○花園天皇光厳天皇ヲイフ　ハ何ナル目ヲカ見ニズラント思食歎セ給ケレ、天照大神御計ニヤ、無子細テ都ニ御坐ス、何ニモ後ニ事アルベキニヤトゾ申ケル○此ノ書後醍醐天皇ヲ先帝ト称シ又重祚トイヘルナドハ皆非ナリ、採用スベカラサルナリ、取ルベキモノハ唯其ノ事実ノミ

○崇光天皇

皇年代略記下巻　崇光院云云　觀應二年十一月七日奉廢之武将和睦賀名生君申行之廢觀應号為正平六年十二月廿三日被渡内侍所并神璽於南方○崇光天皇廢セラルヽニ及テ、神器ヲ後村上天皇ニ奉ル、而シテ此ノ神器ヤ真ノ神器ニ非ズ、後醍醐天皇ノ建武三年十一月二日、花山院ニ於テ光明天皇ニ渡サレシ所ノ偽器ナリ　同廿八日被奉太上天皇尊號於南方行宮宣下云由翌年正月三日被告申十御年八　三年閏二月廿日依新主天氣新○主天氣トハ後村上天皇ノ部アルヲイフ　渡御八幡軍陣西上皇御同車云云○西上皇ハ光厳上皇光明上皇ヲイフ　三月三日奉移河州東條云云○崇光天皇ニ廢セラルヽヲイフ

皇代記下巻　崇光院云云　觀應二年辛卯正平六年十一月、正平六年云云此年号暫時、宍太宮皇○後村上天即位云云被称賀名宇云云

太平記巻卅　足利宰相中將義詮朝臣ハ、將軍○尊氏ヲイフ鎌倉ヘ下リ給シ時、京師守護ノ為ニ被殘坐シケルガ、關東ノ合戰ノ左右ハ未聞、京師ハ以外ニ無勢ナリ、角テハ如何様和田楠ニ被寄テ無云甲斐京ヲ被落ヌトオボシケレバ、一且事ヲ謀テ暫ク洛中ヲ無為ナラシメン為ニ、吉野殿○後村上天皇ヲイフヘ使者ヲ立テ、自今以後ハ御治世ノ御事ト、國衙郷保并ニ本家領家年来進止ノ地ニ於テハ、武家一向其綺ヒヲ可止ニテ候、只承久以後新補ノ率法並ニ國々守護職地頭御家人所帯ヲ武家ノ成敗ニ被許テ、君臣和睦ノ恩惠ヲ被施候バ、武臣七德ノ干

戈ヲ收メテ、聖主萬歳ノ寶祚ヲ可奉仰ト頻ニ奏聞ヲゾ被経ケル、依之諸卿僉議有テ先ニ直義入道和睦ノ由ヲ申テ言下ニ變ジヌ、是モ又偽テ申ス條無子細覺レ共、謀ノ一途タレバ先義詮ガ被任申旨帝都還幸ノ儀ヲ催シ、而シテ後ニ義詮ヲバ畿内近國勢ヲ以テ退治シ、尊氏ヲバ義貞ガ子共ニ仰付テ則被追罰ニ何ノ子細カ可有トテ、御問答再往ニモ不及御合體ノ事子細非ジトゾ被仰出ケル、両方互ニ偽給ヘル趣誰カハ可知ナレバ、此間持明院殿方ニ被拜趨ケル諸卿皆賀名生殿（後村上天皇居ヲイフ）ヘ被参、先當職ノ公卿ニハ二條關白太政大臣良基公云云禪律ノ長老寺社ノ別當神主ニ至ルマデ、我先ニト馳参リケル間、サシモ淺猿シク賤シゲナリシ賀名生ノ山中如花隠映シテ、如何ナル辻堂温室風呂マデモ幔幕引カヌ所モ無リケリ、今參候スル所ノ諸卿ノ叙位轉任ハ、悉持明

院殿ヨリ被成タル官途ナレバトテ、各一級一階ヲ被貶ケルニ云云山中伺候ノ公卿殿上人ヲバ、多年勞功アリトテ超涯不次ノ賞ヲ被行ケル間、窮達忽ニ地ヲ易ヘタリ云云憂カリシ正平六年ノ歳晩テ、アラタマノ春立ヌレトモ、皇居ハ猶モ山中ナレバ、白馬踏歌ノ節會ナンドハ不被行云云二月廿六日主上（後村上天皇ヲイフ）已ニ山中ヲ御出有テ、瑤輿ヲ先ッ東條ヘ被促、劔璽役人計衣冠正シクシテ被供奉、其外月卿雲客衛府諸司ノ尉ハ、皆甲冑ヲ帯シテ前驅後乘ニ相從フ云云同十九日八幡ヘ行幸成テ、田中法印ガ坊ヲ皇居ニ被成、赤井大渡ニ關ヲ居テ、兵山上山下ニ充満タルハ、混ラ合戰ノ御用意ナリト洛中ノ聞エ不穏依之義詮朝臣法勝寺慧鎮上人ヲ使ニテ、臣不臣ノ罪ヲ謝シテ勅免ヲ可蒙由申入ルヽ處ニ、照臨已ニ下情ヲ被恤、上下和睦ノ義事定リ候ヌル上ハ、何事ノ用心カ候

ベキニ、和田楠以下ノ官軍等混ラ合戦ノ企アル由承及候、如何様ノ子細ニ候ヤラント被中タリ、主上直ニ上人ニ御對面有テ、天下未恐懼ヲ懐ク間、只非常ヲ誡ノン爲ニ官軍ヲ被召具トイヘドモ、君臣已ニ和睦ノ上ハ更ニ異變ノ義不可有、縱讒者ノ説アリ共胡越ノ心ヲ不存バ、太平ノ基タルヘシト勅答有テゾ被返ケル、綸言已ニ如此士女ノ説何ゾ用ル處ナラントテ、義詮朝臣ヲ始トシテ京都ノ軍勢曽テ今被出移トハ夢ニモ不知、由断シテ居タル處ニ、同二十七日ノ辰ノ刻ニ中院右衛門督顯能三千餘騎ニテ、鳥羽ヨリ推寄テ東寺ノ南羅城門ノ東西ニシテ旗ノ手ヲ解キ、千種少將顯經五百餘騎ニテ丹波路唐櫃越ヨリ押寄テ西七條ニ火ヲ揚ル、和田楠三輪越知真木神官寺其勢都合五千餘騎、宵ヨリ桂川ヲ打渡テマダ篠目ノ明ヌ間ニ、七條大宮ノ南北七八町ニ村立テ閧ヲゾ

揚タリケル、東寺大宮ノ時ノ聲七條口ノ烟ヲ見テ、スハヤ楠寄タリト京中ノ貴賤上下遽騒グ事不斜云云細河讃岐守ハ被討ヌ、陸奥守ハ何地共不知落行ヌ、今ハ重テ可戰兵無カリケレバ、宰相中將義詮朝臣僅ニ百四五十騎ニテ近江ヲ差テ落給フ云云去程ニ敵ハ都ヲ落タレドモ、吉野ノ帝○後村上天皇ヲイフハ洛中ヘ臨幸モ不成只北畠入道准后顯能卿父子計リ、京師ニ坐シテ諸事ノ成敗ヲ司リ給テ、其外月卿雲客ハ皆主上御坐ニ付テハ幡ニゾ伺候シ給ケル、同二十三日中院中將具忠ヲ勅使ニテ、都ノ内裏ニ御座ス三種神器ヲ吉野ノ主上ヘ渡シ奉ル○崇光天皇ノ神器ヲ後村上天皇ニ渡シ奉ルヲイフ是ハ先帝○後醍醐天山皇ヲイフ門ヨリ武家ヘ被渡タリシ物ナレバトテ、璽ノ御箱ヲバ被棄、寶劍ト内侍所トヲバ、近習ノ雲客ニ被下テ、衛府ノ太刀裝束ノ鏡ニゾ被成ケル、ゲニモ誠ノ三種神器ニテハナケレドモ、

巳ニ三度大嘗會ニ逢テ、毎日ノ御神拜清暑堂ノ御神樂、二十餘年ニ成ヌレバ、神靈モナドカ無カルベキニ、餘ニ無恐凡俗ノ器物ニ被成ヌル事、如何アルベカラント申ス族モ多カリケリ、同二十七日北畠右衛門督顯能兵五百餘騎ヲ率シテ、持明院殿ヘ參リ、先其邊ノ辻辻門門ヲ堅メサセケレバスハヤ武士共ガ參テ院内ヲ失ヒ進ラセントスルハトテ、女院皇后御心ヲ迷ハシテ臥沈マセ給フ、内侍上童上臈女房ナドハ、向後モ不知逃フタメイテ此彼ニ立吟フ、サレドモ顯能卿穏カニ西ノ小門ヨリ參テ、四條大納言隆蔭卿ヲ以テ、世ノ静リ候ハン程ハ、皇居ヲ南山ニ移シ進ラスベシトノ勅定ニテ候ト被奏ケレバ、両院（光厳天皇光明天皇ヲイフ）主上（崇光天皇ヲイフ）東宮（直仁親王ヲイフ）アキレサセ給ヘル計ニテ、兒角ノ御言ニモ不及、只御泪ニノミシヲレサセ給テ、羅穀ノ御袂ヲ絞計ニ成ニケリ、良暫有テ

新院（光明天皇ヲイフ）御泪ヲ押テ被仰ケルハ、天下乱ニ向フ後僅ニ帝位ヲ雖踐、叡慮ヨリ起リタル事ニ非レバ、一事モ世ノ政ヲ御心ニ不任、北辰光消テ中夏道闇キ時ナレバ、共ニ椿嶺ノ陰ニモ寄リ、遠ク花山ノ跡ヲモ追ハヾヤトコソ思名ツレドモ、其モ叶ハヌ折節ノ憂サ、豈叡察ナカラシヤ、今天運膺圖萬人望ヲ達スル時至レリ、乾臨曲テ恩免ヲ蒙ラバ、速ニ釋門ノ徒ト成テ、邊鄙ニ幽居ヲトシト思フ、此一事具ニ可有奏達ト被仰出ケレ共、頭能再往ノ勅答ニモ不及、已ニ綸命ヲ蒙ル上ハ、押ヘテハ如何カ奏聞ヲ經候ベキトテ、御車ヲ二両差寄セ餘ニ時刻移候ト急ケバ、本院新院主上春宮御同車有テ、南ノ門ヨリ出御ナル云云鳥羽マデ御幸成タレバ、夜ハ早若々ト明ハテヌ、此ニ御車ヲ駐メテ、怪ゲナル邊輿ニ名替サセ進セ、日ヲ經テ吉野ノ奥賀名生ト云フ所ヘ御幸成シ奉ル（正平六年後村上）

天皇ノ崇光天皇ヲ廢セシコト、太平記ニ記スル所甚委シ故ニ事長ケレド此ニ載セ、以テ其ノ情実ヲ詳ニス

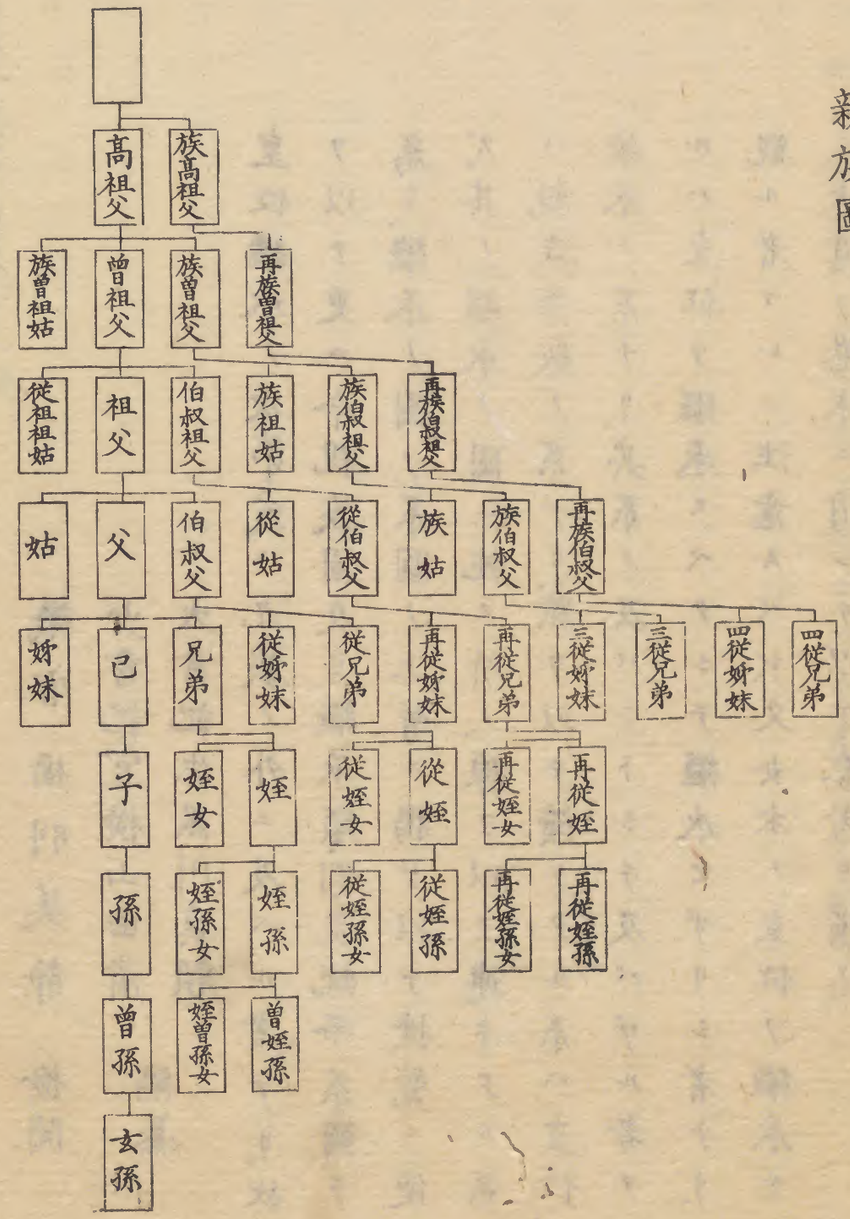
皇位繼承篇巻九終

皇位繼承篇巻十

議官　福羽美静　検閲
少書記官　横山由清　編纂
大書記生　黒川真頼

皇位繼承ノ次第或ハ九族ノ外ニ及ベル者アリ、故ヲ以テ更ニ今親族圖及ビ繼承類例皇統略系圖ヲ爲リ、繼承ノ圖ヲ系圖ノ上層ニ掲ゲ以テ捷覧ニ便ズ、其ノ繼承ノ圖ニ施ス所ノ、線ヲ以テ連ネタル系ハ親族等級ノ系ナリ、點ヲ以テ續ケタル系ハ皇位繼承ノ系ナリ、其系ノ及バントシテ及バザル者アルハ皇位ヲ繼承スベクシテ繼承セザリシ者ナリ、觀ル者コレニ注意スベシ、又女主ノ皇位ヲ繼承セシ大意ヲ巻末ニ附シテ以テ參考ニ備フ

親族圖



繼承類例

父ノ後ヲ子ノ繼承セシ例

父天皇崩ズ子皇太子嗣グ、父天皇讓ル子皇太子受ク、父天皇崩ズ子皇太子親王皇子内親王皇女嗣ぐ、父天皇讓ル子親王皇子内親王皇女受クルノ類ナリ、但シ事故アル者ハ再タビ別條ニ掲グル者アリ、綏靖天皇ハ父ノ後ヲ子ノ繼承セシ例ナレドモ兄ヲ超テ弟ノ繼承セシ條ニモ再タビ掲グルノ類ナリ、以下皆コレニ倣ヘ

六十二帝 綏靖 安寧 懿德 孝昭 孝安 孝靈 孝元 開化 崇神 垂仁 景行 成務 應神 仁德 履仲 安康 清寧 武烈 安閑 敏達 弘文 孝謙 桓武 平城 文德 清和 陽成 宇多 醍醐 朱雀 冷泉 後冷泉 白河 堀河 鳥羽 崇德 二條 六條 安德 土御門 仲恭 四條 後深草 後宇多 後伏見 後村上 後亀山 後圓融 稱光 後土御門 後柏原 後奈良 正親町 後水尾 明正 東山 中御門 櫻町 桃園 仁孝 孝明 今上

兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例

二帝 綏靖 顯宗

祖父ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例

一帝 後陽成

祖母ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例

一帝 文武

兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

二十帝 反正 允恭 雄略 宣化 欽明 用明 崇峻 嵯峨 淳和 村上 圓融 後朱雀 後三條 近衛 順德 亀山 光明 後光嚴 後西院 靈元

姉ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

二帝 孝德 後光明

伯父ノ後ヲ姪女ノ繼承セシ例

一帝 皇極

叔父ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例

二帝 仲哀 花山

叔父ノ後ヲ姪女ノ繼承セシ例

一帝 持統

姑ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例

二帝 聖武 後桃園

從伯父ノ後ヲ從姪ノ繼承セシ例

一帝 後一條

從姑ノ後ヲ從姪女ノ繼承セシ例

一帝 元正

從祖祖姑ノ後ヲ姪孫ノ繼承セシ例

一帝 舒明

族叔祖父ノ後ヲ從姪孫女ノ繼承セシ例

一帝 稱德

從兄弟ノ後ヲ從兄弟ノ繼承セシ例

三帝 一條 三條 伏見

再從兄弟ノ後ヲ再從兄弟ノ繼承セシ例

五帝 顯宗 後嵯峨 後二條 花園 後醍醐

族兄弟ノ後ヲ族兄弟ノ繼承セシ例

一帝 後花園

四從兄弟ノ後ヲ四從兄弟ノ繼承セシ例

一帝 繼體

弟ノ繼承スベキヲ兄ノ繼承セシ例

一帝 仁德

弟ノ後ヲ兄ノ繼承セシ例

二帝 仁賢 後白河

弟ノ後ヲ姊ノ繼承セシ例

三帝 推古 齊明 後櫻町

姪ノ後ヲ叔父ノ繼承セシ例

二帝 天武 高倉

姪孫ノ後ヲ叔祖父ノ繼承セシ例

一帝 光孝

從姪ノ後ヲ從姑ノ繼承セシ例

一帝 元明

從姪ノ後ヲ從伯父ノ繼承セシ例

一帝 後堀河

從姪孫女ノ後ヲ族叔祖父ノ繼承セシ例

一帝 淳仁

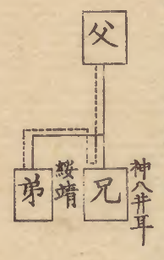
再從姪ノ後ヲ族叔父ノ繼承セシ例

一帝光格
再従姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ繼承セシ例
一帝光仁

皇統畧系圖

皇位ノ繼承ヲ分類スレバ綏靖天皇ヨリ今上ニ至テ凡テ廿八種ナリ、其ノ中ニ父ノ後ヲ子ノ繼承セシ例ハ、系圖ニ於テ一目瞭然ナレバ煩シク贅セズ、其ノ他兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例ヨリ以下再従姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ繼承セシ例ニ至テ、凡テ廿七種ハ其ノ跡ノ異ナル者ニシテ、施ス所ノ等親ノ地位モ亦速ニ會得シ難キ者アリ、故ニ皇統畧系圖ヲ作リ繼承ノ圖ヲ其ノ上層ニ記シ、且ツ皇太子日嗣皇子等ノ繼承セズシテ

〇兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例



薨ゼシ者、其ノ或ハ事故アリテ繼承セザリシ者等ノ傳說ヲ略記シ、供セテ一覽ニ便ナラシム

第一代神武天皇
手研耳命
庶子ナルヲ以テ皇位ヲ繼承セズ、
敢クニ及デ誅セラル
神八井耳命
綏靖天皇ノ兄ナリ且日嗣皇子ナレドモ、弟綏靖天皇ノ功德アルニ讓リテ皇位ヲ繼承セズ
第二代綏靖天皇
第三代安寧天皇
第四代懿德天皇
第五代孝昭天皇
第六代孝安天皇

第十七代 孝霊天皇

第十八代 孝元天皇

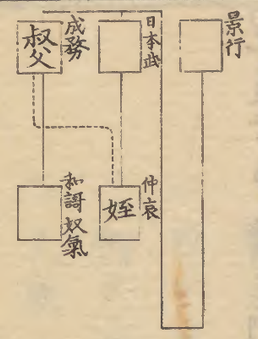
第十九代 開化天皇

第十代 崇神天皇

第十一代 垂仁天皇

第十二代 景行天皇

○叔父ノ後ヲ姪ノ継兼セシ例



第十三代 成務天皇

日本武尊

日本武尊ハ日嗣皇子ナレドモ東征シテ途ニ崩ズ、故ヲ以テ皇位ヲ継承スルニ及バズ

按ズルニ天皇ハ父天皇ノ意ヲ察シ皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ姪仲哀天皇ニ傳フル欤、天皇在世ノ中皇子ヲ立テザリシモ亦以テ見ルベキナリ

和哥奴氣王

第十四代 仲哀天皇

聾阪皇子

忍熊皇子

聾阪忍熊ノ二皇子ハ並ニ應神天皇ノ兄ナリ、而レドモ皇后ノ生メル所ニ非ズ、故ヲ以テ日嗣皇子ト称セズ、敢クニ及デ誅セラル

第十五代 應神天皇

此ノ皇子ノ名詳ナラズ、按ズルニ譽屋別皇子歟

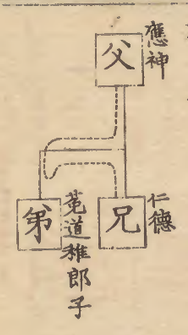
大山守皇子

庶子ナルヲ以テ皇太子ニ立タズ、叛シテ誅セラル

第十六代 仁徳天皇

天皇ハ父天皇ノ意ニ隨テ皇位ヲ継承スルヲ欲セズ、皇太子菟道雅郎子

○弟ノ継承スベキヲ兄ノ継承セシ例



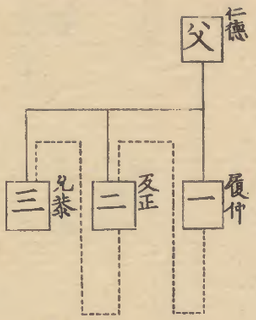
郎子ノ皇子薨ズルニ至テ已ムコトヲ得ズ皇位ヲ継承ス

苑道稚郎子皇子

父應神天皇特ニ皇子ヲ愛シ立テ太子ト為ス、皇子兄ニ越ユルヲ以テ意ニコレヲ適セリト為ズ、父天皇崩ズルニ及デ皇位ヲ継承スルヲ辞シテ自殺ス

稚渟毛二派皇子

○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



兄弟ノ地位ニ一二三ト記シタルハ一子二子三子ノコトニ非ズ唯順序ヲ知ラシムルノミ

第十七代 履仲天皇

子孫下ニ出ヅ

住吉仲皇子

皇子ハ兄履仲天皇ニ叛シテ誅セラル

第十八代 反正天皇

天皇ハ兄履仲天皇ニ忠アリ履仲天皇因テ皇太子ト為ス、但シ履仲天皇皇子無キニアラズ、

第十九代 允恭天皇

天皇ノ兄反正天皇崩ズ嗣無シ、天皇因テ皇位ヲ継承ス

木梨輕皇子

皇子ハ立テ皇太子タリ、婬乱ナルヲ以テノ故ニ同母弟ノ安康天皇ニ殺サル

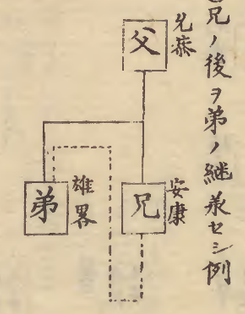
第二十代 安康天皇

天皇ハ兄輕皇子ノ婬乱ナルヲ以テ殺シテ皇位ヲ継承ス、天皇子無シ

第廿一代 雄略天皇

天皇ノ兄安康天皇崩ズ、子無シ因テ皇位ヲ継承ス

○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



○再従兄弟ノ後ヲ再従兄弟ノ継承セシ例

磐城皇子

皇子ハ弟星川皇子ノ叛ヲ援ケテ誅セラル、皇子ハ庶子ナリ

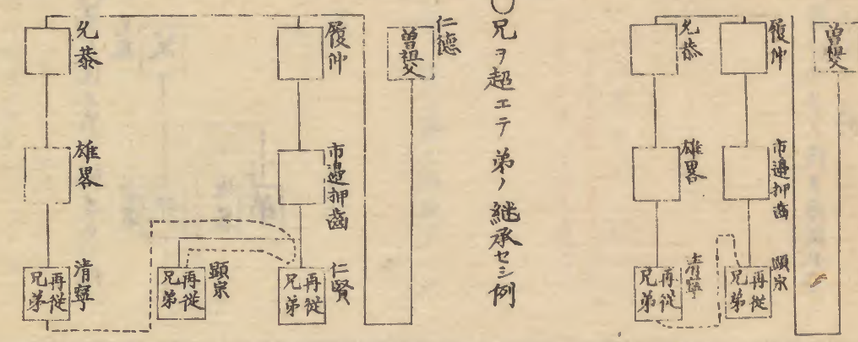
第廿二代 清寧天皇

天皇ハ皇子皇女共ニ無シ

星河皇子

父雄略天皇豫テ皇子ノ叛センコ

○兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例



ト知ル、天皇崩ズルニ及デ果シテ叛ス、清寧天皇ニ誅セラル

履仲天皇皇子

市邊押齒皇子

皇子ハ履仲天皇ノ子ナルヲ以テ、安康天皇コレニ國ヲ傳ヘント欲ス、果サズシテ崩ズ、雄略天皇コレヲ知ル、安康天皇ノ崩ズルニ及デ皇子俄ニ雄略天皇ニ殺サル、雄略天皇ノ此ノ皇子ヲ殺シ、代リ立タンコトヲ猜忌セシナルベシ

飯豐青尊

仁賢顯宗ノ二天皇相讓テ皇位ニ即カズ、其ノ間皇女朝ニ臨テ政ヲ聽ク

第廿四代

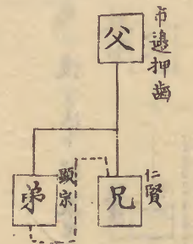
仁賢天皇

天皇ハ顯宗天皇ノ兄ナリ、而レドモ其ノ弟ノ功勞アルヲ以テ辞シテ皇位ヲ繼承セズ、弟天皇崩ズルニ及デ立テ寶位ニ即ク

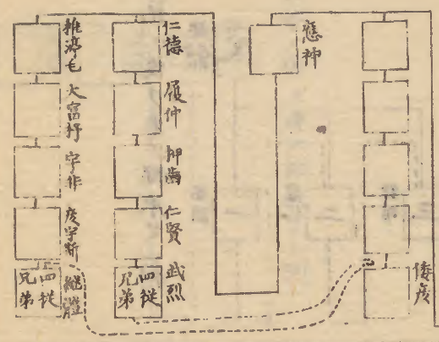
第廿三代

顯宗天皇

○弟ノ後ヲ兄ノ繼承セシ例



○四從兄弟ノ後ヲ四從兄弟ノ繼承セシ例



仁賢顯宗ノ二天皇ハ、父ノ難ニ遭ヒシトキ逃レテ播磨ニ走ル、後清寧天皇コレヲ召ス、清寧天皇崩ズ、天皇兄ノ意ニ從テ皇位ヲ繼承ス、天皇子無シ

第廿五代

武烈天皇

天皇子無シ

仲哀天皇二世孫

三世孫

四世孫

五世孫

倭彥王

武烈天皇崩ジテ嗣ナシ、群臣相議シテ仲哀天皇五世孫倭彥王ヲ迎ヘ、皇位ヲ繼承セシメント計ル、王迎兵ヲ望ミ見テ大ニ驚キ、急ニ山谷ニ逃ル其ノ到ル所ヲ知ラズ

應神天皇三世孫

大富杼王

三世孫

宇非王

四世孫

彥宇斯王

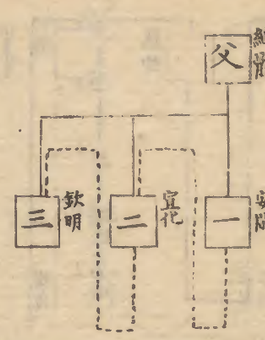
第廿六代

五世孫

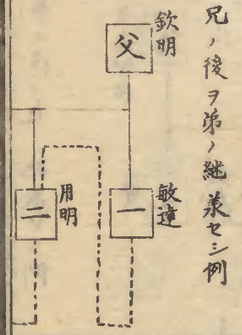
繼體天皇

武烈天皇崩ズ嗣無シ、群臣相議シ

○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



第廿七代
安閑天皇

天皇アリ而レドモ幼クシテ皇位ヲ継承スルコト能ハザリシ故、其ノ他猶故アル歟、

第廿八代
宣化天皇

天皇子アリ、コレモ亦其ノ皇位ヲ継承セザリシ所由ヲ詳ニセズ

第廿九代
欽明天皇

箭田珠勝大兄皇子

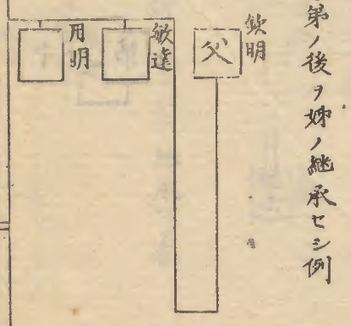
皇子ハ父欽明天皇在位ノ中ニ薨ズ

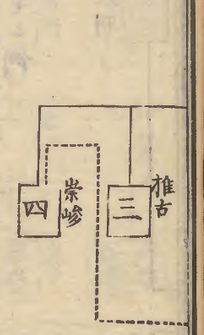
第三十代
敏達天皇

天皇ハ兄箭田珠勝大兄皇子薨ゼシヲ以テ、立テ皇位ヲ継承ス

押坂彦人大兄皇子

○第ノ後ヲ姉ノ継承セシ例





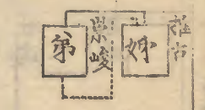
第三十一代
用明天皇

皇子ノ中ニ大兄ト称スルハ日嗣皇子ナリ、皇子ハ大兄ヲ以テ称ス、日嗣皇子ノ皇位ヲ継承セザリシコトヲ見ルベシ、其ノ詳ナラザリシ所以、蓋シ人皇子ハ日嗣皇子ナリ、而レドモ父天皇在位ノ中ニ薨ズルニ及バザリシナラン、故ヲ以テ皇位ヲ継承スルハ推古天皇ノ御宇マデ尚存在セリ、其ノ故ハ舒明天皇ナリ、推古天皇ノ元年ニ生ミタレバ、其ノ後尚歟子ヲ生メリ、

第三十二代
主女
推古天皇

天皇崩ジテ後、押坂彦人大兄皇ノ弟崇峻天皇暴ニ崩ズ、崇峻天皇ノ皇子アリ、而レドモ群臣コレヲ奉載セズ、天皇ヲ奉載シテ天皇ノ勧進ニ従テ皇位ヲ継承スル所以ヲ大兄皇子、未ダ幼稚ナルヲ以テノ故ナル歟、

国立公文書館
National Archives of Japan



ス、是本邦女主ノ始ナリ是ノ時ニ當テ押坂彦人大兄皇子厩戸皇子アリ、而レドモ群臣ノ意コヽニ歸セズ、遂ニ女主ニ定マル

穴穂部皇子

用明天皇崩ズ、大連物部守屋獨皇子ヲ立テ天皇トセント欲ス、大臣蘇我馬子等コレヲ不可ナリトス、皇子馬子ニ害セラル

崇峻天皇（第三十二代）

用明天皇崩ズ皇子厩戸皇子アリ、然レドモ姉推古天皇ト群臣トノ勸進ニ從テ皇位ヲ継承ス、既ニシテ天皇大臣蘇我馬子ノ專横ヲ惡ム、馬子コレヲ弑セラル、天皇皇子ニ代ル、

厩戸皇子

皇子ノ姑推古天皇立ツ、皇子ヲ立テ皇太子ト為ス、推古天皇在位ノ薨ズ

○従祖祖姑ノ後ヲ姪孫ノ継承セシ例

欽明

○九

敏達
押坂彦人
舒明
姪孫
厩戸
山背
姪孫
用明
推古
従祖祖姑

○伯父ノ後ヲ姪女ノ継承セシ例

押坂彦人
伯父

舒明
伯父
茅渟
皇極
姪女

○姉ノ後ヲ弟ノ継承セシ例

茅渟
父

山背大兄王

舒明天皇（第三十四代 敏達天皇孫 押坂彦人大兄皇子子）

推古天皇崩ズルニ臨テ、天皇翻テト山背大兄王トニ遺言シテ皇位ノ継承ハ自然ニ定マルニ從ハシメテ、自ラコレヲ冀望セザラシム、天皇ト山背大兄王トハ、共ニ推古天皇ノ兄ノ孫ニシテ姪孫ニ當レリ、群臣相議シテ天皇ヲ勸進ス、天皇乃チ皇位ヲ継承ス

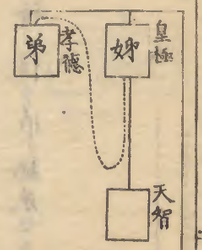
茅渟王

按ズルニ茅渟王ハ舒明天皇皇位ヲ継承セザリシ前ニ薨ゼシナラン、舒明天皇即位ノ後薨ゼシナラバ、天皇ノ弟ニ當ルヲ以テノ故ニ茅渟皇子トゾ称スベキ

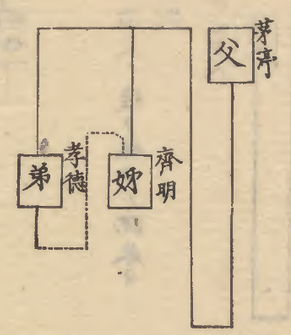
皇極天皇（第三十五代 重祚齊明天皇 第三十七代 女主）

天皇ハ舒明天皇ノ皇后ニシテ天智天皇ノ母ナリ、按ズルニ舒明天

○弟ノ後ヲ姉ノ継承セシ例



○姪ノ後ヲ叔父ノ継承セシ例



第三十六代 孝徳天皇

皇崩ジテ皇子尚幼シ、故ヲ以テ天皇位ヲ継承セシナラン

天皇ノ姉皇極天皇皇位ヲ皇子ニ譲ラズシテ之ヲ天皇ニ傳フ、天皇辞スルコト能ハズシテ皇位ヲ継承スル

有間皇子

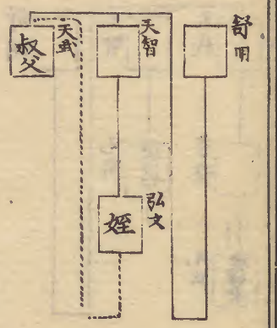
父孝徳天皇崩ジテ後皇子叛シテ誅セラル

第三十八代 天智天皇

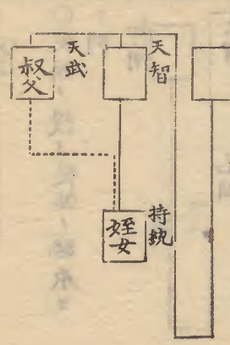
古人大兄皇子

皇子ト中大兄皇子（天智天皇）ハ共ニ日嗣皇子ナリ、父舒明天皇崩ズ皇子宣シク皇位ヲ継承スベシ、而シテ皇子ノ時ニ立タザリシコトハ年雅キヲ以テ皇極天皇位ヲ孝徳天皇ニ譲ル、方テ、孝徳天皇コレヲ皇子ニ譲ル事覺レテ、遂ニ僧トナル、後誅叛ス

○叔父ノ後ヲ姪女ノ継承セシ例



○祖母ノ後ヲ嫡孫ノ継承セシ例



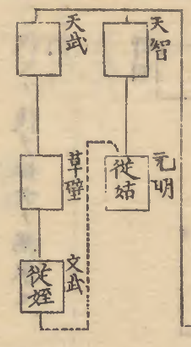
第四十代 天武天皇

舒明天皇崩ズ天皇宜シク皇位ヲ継承スベシ、按ズルニ年幼キヲ以テ未ダ立タザル欽母皇極天皇立ツ、皇中臣鎌足ノ策ヲ用ヰテ之ヲ辞シ、叔父孝徳天皇ニ傳ヘントコトヲ奏ス、母天皇コレニ従テ弟孝徳天皇ニ傳フ、孝徳天皇崩ズ、皇極天皇因テ重祚ス是ヲ齊明天皇トイフ、齊明天皇崩ズ、是ニ於テ天皇位ヲ継承ス

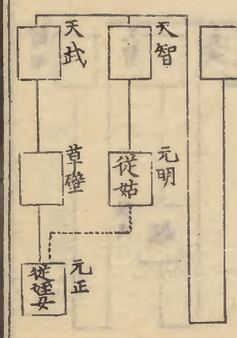
第四十一代 女主 持統天皇

天皇ハ兄天智天皇ノ時立テ皇太弟タリ、天智天皇大漸ニ臨テ皇位ヲ天皇ニ傳ヘントス、天皇固辞ス、天智天皇ノ意ヲ弘文天皇ニ属セルヲ以テナリ、天智天皇崩ズ弘文天皇立ツ、弘文天皇陰ニ天皇ヲ伐タントス謀ル、遂ニ交兵ヲ發シ大戰フ、天皇勝ヲ得タリ因テ皇位ヲ継承ス

○從姪ノ後ヲ從姪ノ繼承セシ例



○從姑ノ後ヲ從姪女ノ繼承セシ例



天皇ハ叔父天武天皇ノ皇后ナリ、天武天皇崩ズ皇子草壁アリ年未ダ長セズ、故ヲ以テ天皇皇位ヲ繼承

女第四十三代主 元明天皇

天皇ハ皇太子草壁ノ妃ナリ、皇太子草壁ハ持統天皇在位ノ中ニ薨ズ草壁皇子アリ、天皇ノ生ム所ナリ、立ツ、是ヲセ武天皇トイフ、文武天皇崩ズ、文武天皇アリ聖武天皇年間天

第二十九代 弘文天皇

皇位ヲ繼承ス

施基皇子

天皇ハ叔父天武天皇ヲ討ントシテ反リテ破ラレテ自殺ス

草壁皇子

皇子ハ母持統天皇ノ在位ノ中ニ薨ズ

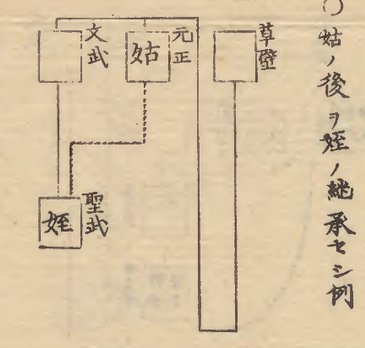
舍人親王

新田部親王

高市皇子

皇子ノ兄草壁皇子薨ジテ後皇太子ニ立ツ、持統天皇在位ノ中ニ薨ズ

○姑ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例



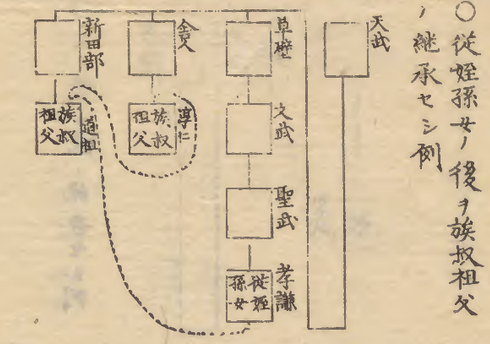
女第四十四代主 元正天皇

從姑元明天皇皇位ヲ聖武天皇ニ傳ヘントス、聖武天皇年未ダ長セズ、故ヲ以テ天皇皇位ヲ繼承シ、以テ聖武天皇ノ長ズルヲ俟ツ

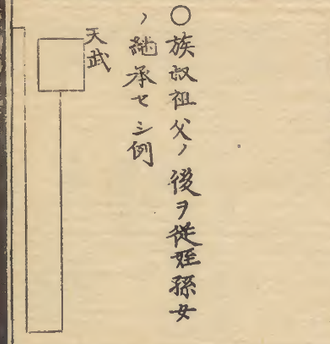
第四十五代 文武天皇

天皇ノ父草壁皇子皇位ヲ繼承スルニ及バズシテ薨ズ、時ニ天皇幼叔父高市皇子立テ皇太子ト為ル、高市皇子モ亦薨ズ、是ノ時ニ當テ天皇既ニ長ジ皇太子ニ立ツ、祖母持統天皇遂ニ皇位ヲ天皇ニ傳フ、是本邦ニ於テ嫡孫承祖ノ始ナリ

○従姪孫女ノ後ヲ族叔祖父ノ継承セシ例



○族叔祖父ノ後ヲ従姪孫女ノ継承セシ例



○再従姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ継承セシ例

聖武天皇

第四十五代

天皇ノ父文武天皇崩ズ天皇時ニ年未ダ長ゼズ、元明元正ノ二天皇相継テ立ツ元正天皇皇位ヲ辞スルニ及テ天皇之ヲ継承ス

孝謙天皇

女主 第四十六代 第四十八代

天皇重祚ス後世ニ至テ重祚ヲ称シテ称徳天皇トイヒ以テ前世ニ別ツ

父聖武天皇ト為ス、皇子薨ズ故ヲ以テ皇位ヲ天皇ニ傳フ、天皇ハ女主ナリ、女主ハ其ノ傳フベキ者無シ聖武天皇ノ因テ詔シテ道祖王ヲ立テ天皇ノ皇太子ト為ス、後事故アリ道祖王ハ廃セラル、是ヨリ先女主数帝アリ、皆位ヲ継承スベキ皇子アリト雖ドモ而レドモ事故アルヲ以テ数年ノ間皇位ヲ継承シ、武ハ皇子ノ年未長ゼザルヲ以テ皇位ヲ継承シテ、以テ其ノ長ズルヲ俟シナリ、孝謙天皇ハ獨然ラズ

孝シタル女主ノ皇位ヲ継承セシ大意ノ條ニ併ズ紀テ見ルベシ

皇子基王

基王ハ神亀四年閏九月廿九日生ル孝謙天皇ニ後ル、コト八年ナリ

皇子ハ皇太子ト為リテ後一年ヲ経テ薨ズ

淳仁天皇

第四十七代 天武天皇孫舎人親王子

孝謙天皇嗣无シ、因テ天皇ヲ以テ皇太子ト為シ以テ皇位ヲ譲ル、天皇乃皇位ヲ継承ス、後數年ニシテ孝謙天皇ニ廃セラル

道祖王

天武天皇孫新田部親王子

孝謙天皇嗣无シ、因テ道祖王ヲ以テ皇太子ト為ス、既ニシテ道祖王孝謙天皇ノ意ニ恊ハズ皇太子ヲ廃セラル

光仁天皇

第四十九代 天智天皇孫施基皇子子

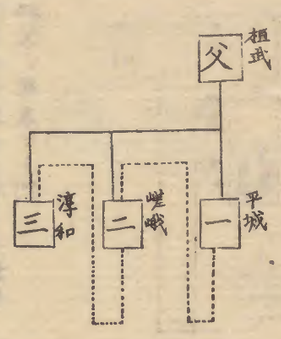
天皇ノ再従姪孫稱徳天皇崩ズ、天皇稱徳天皇ノ遺詔ニ従テ皇位ヲ継承ス

桓武天皇

第五十代

天皇ハ母ノ卑シキヲ以テ初メ皇太子ト為リテ皇位ヲ継承ス

○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



早良親王

親王ハ父光仁天皇ノ詔ニ依テ立テ兄桓武天皇ノ皇太子トナル、事故アリテ廢セラル

第五十一代 平城天皇

高岳親王

親王ハ叔父嵯峨天皇ノ皇太子トナル、父平城天皇ノ事ニ依テ廢セラレテ僧トナル、真如親王即チ是ナリ

第五十二代 嵯峨天皇

天皇ハ兄平城天皇ノ子高岳親王ヲ以テ太子ト為シテ之ニ皇位ヲ傳ヘン欲ス、既ニシテ平城天皇ノ事アリ、因テ高岳親王ヲ廢シテ、皇位ヲ弟淳和天皇ニ傳フ

第五十三代 淳和天皇

天皇ハ兄嵯峨天皇ノ讓ヲ受ケ、故ニ子ヲ以テ皇太子ト為ス、兄ノ子ヲ以テ皇太子ト為ス、禮讓ヲ貴ブナリ

恒貞親王

親王ハ從兄弟仁明天皇ノ皇太子ト為ル、事故アリテ廢セラル

第五十四代 仁明天皇

天皇ハ叔父淳和天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、故ニ子ヲ以テ皇太子トセズ、叔父ノ子恒貞親王ヲ以テ皇太子ト為ス、恒貞親王不軌ヲ圖ルト聞テコレヲ廢シ、代フルニ子文德天皇ヲ以テス

第五十五代 文德天皇

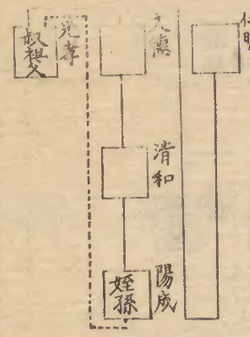
第五十六代 清和天皇

第五十七代 陽成天皇

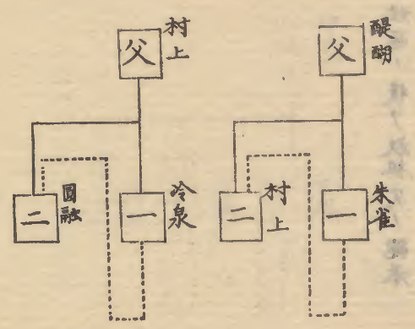
天皇喜怒常ナラズシテ遜位ス、但シ皇子數人アリ

第五十八代 光孝天皇

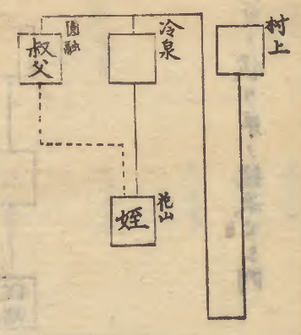
○姪孫ノ後ヲ叔祖父ノ継承セシ例



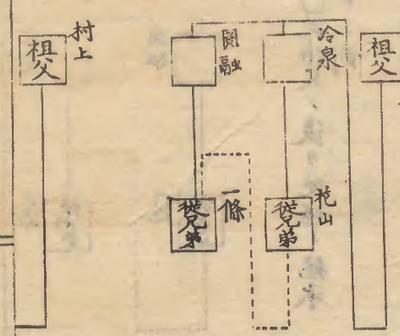
○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



○叔父ノ後ヲ姪ノ継承セシ例



○従兄弟ノ後ヲ従兄弟ノ継承セシ例



第手九代
宇多天皇
姪孫陽成天皇喜怒常ナラズ、群臣因テ天皇ヲ勧進ス、天皇乃チ皇位ヲ継承ス

第六十代
醍醐天皇

保明親王
親王ハ立テ皇太子ト為ル、父醍醐天皇在位ノ中ニ薨ズ

慶頼王
父保明親王薨ズ、王立テ皇太子ト為ル、王亦祖父醍醐天皇在位ノ中ニ薨ズ

第六十一代
朱雀天皇
父醍醐天皇皇位ヲ保明親王ニ傳ヘント欲ス、保明親王薨ズ、因テ孫慶頼王ニ傳ヘント欲ス亦薨ズ、故ヲ以テ天皇ニ傳フ、天皇乃チ皇位ヲ継承ス、天皇皇子無シ

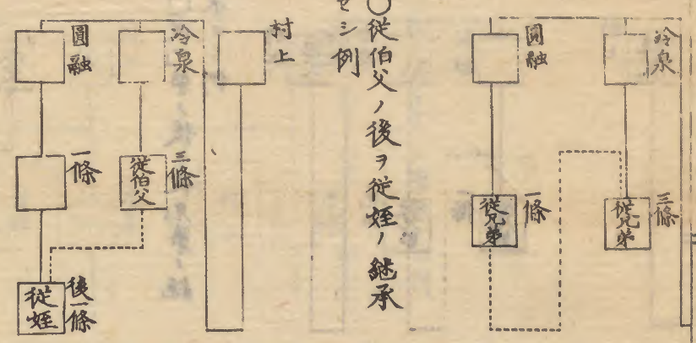
第六十二代
村上天皇
兄朱雀天皇皇子無シ、天皇因テ皇位ヲ継承ス

第六十三代
冷泉天皇
兄冷泉天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、冷泉天皇皇子花山天皇アリ、年幼キヲ以テノ故ニ皇位ヲ傳ヘザルカ

第六十四代
圓融天皇
天皇ハ叔父圓融天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、故ヲ以テ叔父ノ一條天皇ヲ以テ皇太子ト為ス、事故アリテ遜位ス、遜位ノ後天皇皇子數人ヲ生ム

第六十五代
花山天皇
天皇ハ叔父圓融天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、故ヲ以テ叔父ノ一條天皇ヲ以テ皇太子ト為ス、事故アリテ遜位ス、遜位ノ後天皇皇子數人ヲ生ム

第六十六代
一條天皇
天皇ノ父圓融天皇禮讓ノ意ヲ用テ、皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ姪花山天皇ニ傳フ、花山天皇モ亦禮讓ノ意ヲ用テ、從兄弟一條天皇ヲ以テ



○從伯父ノ後ヲ從姪ノ継承セシ例

○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例

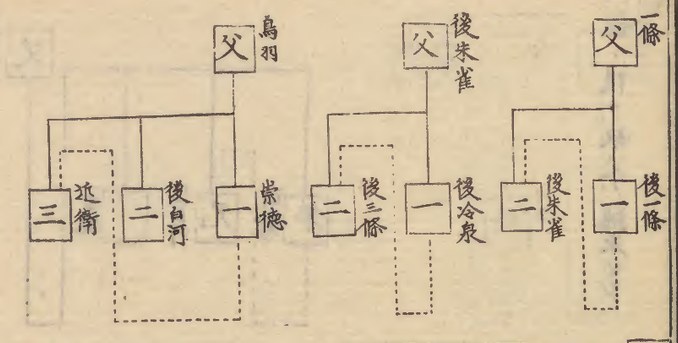
皇太子ト為ス、花山天皇遜位ノ後天皇皇位ヲ継承ス

第六十七代
三條天皇
天皇ノ従兄弟一條天皇ハ花山天皇ノ譲ヲ受ク、故ニ禮譲ノ意ヲ用ヰテ、皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ之ヲ天皇ニ傳フ、天皇ハ花山天皇ノ弟ナリ

第六十八代
後一條天皇
天皇ノ従伯父三條天皇ハ一條天皇ノ譲ヲ受ク、故ニ禮譲ノ意ヲ用ヰテ皇位ヲ天皇ニ譲ル、天皇乃立ツ、天皇モ亦禮譲ノ意ヲ用テ三條天皇ノ子ト為ス、但シ天皇ハ皇子ナシ

敦明親王（小一條院ナリ）ヲ立テ以テ皇太子ト為ス、親王遂ニ皇太子ヲ辞ス、小一條院ト称ス

敦明親王
親王ノ再従兄弟後一條天皇ハ三條天皇ノ譲ヲ受ク、故ニ禮譲ノ意ヲ以テ親王ヲ立テ皇太子ト為ス、親王ハ後一條天皇ヨリ年長ズルコト十四歳ナリ、



第六十九代
後朱雀天皇
天皇ハ兄後一條天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス

第七十代
後冷泉天皇
天皇皇子無シ、故ヲ以テ皇位ヲ弟後三條天皇ニ傳フ

第七十一代
後三條天皇
天皇ハ兄後冷泉天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス

第七十二代
白河天皇

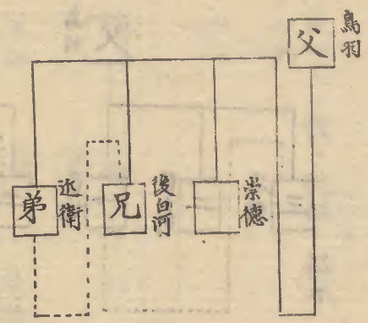
第七十三代
堀河天皇

第七十四代
鳥羽天皇

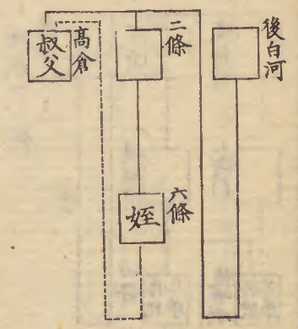
第七十五代
崇徳天皇
天皇ハ父鳥羽天皇ト相善カラズ、近衛天皇崩ジテ皇子無シ、天皇因

実仁親王
親王ハ兄白河天皇ノ皇太弟ニ立ツ、白河天皇在位ノ中ニ薨ズ

○弟ノ後ヲ兄ノ継承セシ例



○姪ノ後ヲ叔父ノ継承セシ例



第七十六代
重仁親王
親王ノ父崇徳天皇皇位ヲ近衛天皇ニ譲ル、近衛天皇崩ズ、皇子無シ、崇徳天皇因テ親王ヲシテ皇位ヲ継承セシメント欲ス得ズ

第七十七代
後白河天皇
親王ヲ以テ皇位ヲ継承セシメント欲シ、或ハ皇子重仁親王ヲ以テ皇位ヲ継承セシメント欲ス得ズ、弟後白河天皇立ツ、天皇意ニ不平ヲ懷ク遂ニ保元ノ乱アリ、軍破ル、ニ及デ天皇讃岐ニ遷幸ス

第七十八代
近衛天皇
天皇ノ弟近衛天皇崩ズ、皇子無シ、天皇因テ皇位ヲ継承ス、兄崇徳天皇意ニ甚ダ不平ヲ懷ク兄崇徳天皇皇位ヲ譲ル、天皇崩ズ、皇子無シ、崇徳天皇ヲ受ク、天皇因テ子重仁親王ヲシテ皇位ヲ継承セシメント欲ス得ズ、後白河天皇コレ天皇立ツ

第七十九代
二條天皇

第八十代
六條天皇
天皇ハ祖父後白河天皇ノ意ニ従テ、天皇位ヲ叔父高倉天皇ニ傳ス、天皇時ニ年五歳ナリ、十三歳ニシテ崩ズ

第八十一代
高倉天皇
天皇ハ父後白河天皇ノ意ニ従テ皇位ヲ継承ス

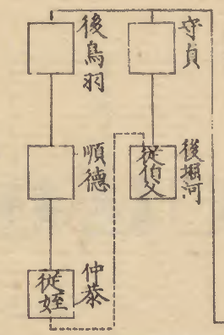
○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例

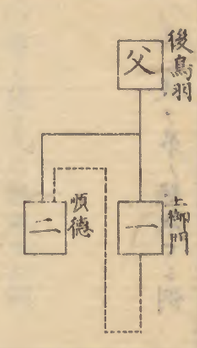
第八十二代
安徳天皇
天皇事故アリテ西海ニ崩ズ

第八十三代
後鳥羽天皇
天皇ノ兄安徳天皇事故アリテ西海ニ遷幸ス、京師ニ主無シ、天皇祖父後白河天皇ノ詔ニ従テ皇位ヲ継承ス、天皇初ハ不正位後正位ナリ

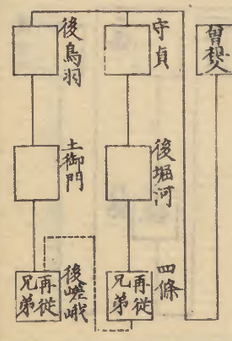
国立公文書館
National Archives of Japan

○従姪ノ後ヲ従伯父ノ継承セシ例





○再従兄弟ノ後ヲ再従兄弟ノ継承セシ例



第八十三代
土御門天皇
天皇ハ父後鳥羽天皇ノ意ニ従テ皇位ヲ弟順徳天皇ニ傳フ

第八十四代
順徳天皇
天皇ハ父ノ意ニ従テ兄土御門天皇ノ譲ヲ受ク

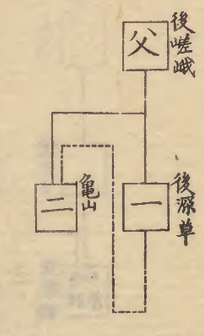
第八十五代
仲恭天皇
承久ノ乱アリ天皇因テ遜位ス、皇子ナシ

第八十六代
後堀河天皇
天皇ハ北條義時ノ勧進ニ従テ皇位ヲ継承ス

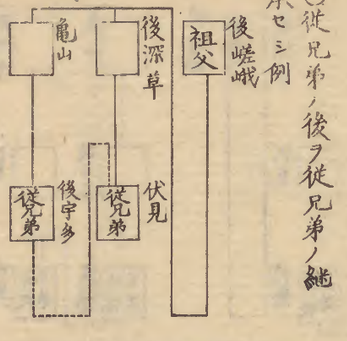
第八十七代
四條天皇
天皇年十二歳ニシテ崩ズ子無シ

第八十八代
後嵯峨天皇
天皇ノ再従兄弟四條天皇崩ズ、天皇北條泰時ノ勧進ニ従テ皇位ヲ継承ス

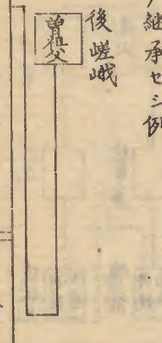
○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



○従兄弟ノ後ヲ従兄弟ノ継承セシ例



○再従兄弟ノ後ヲ再従兄弟ノ継承セシ例



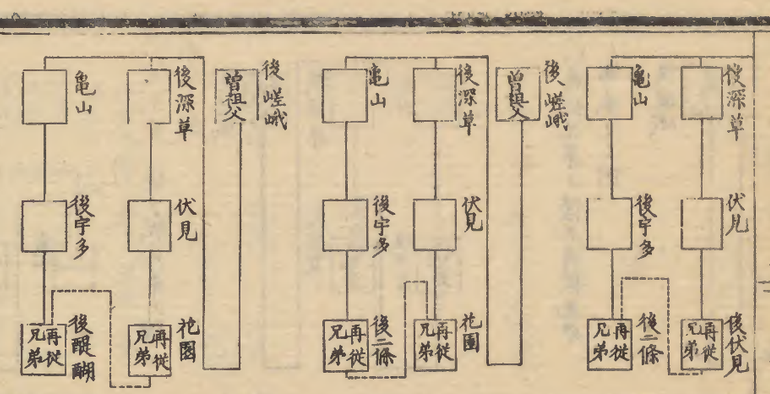
第八十九代
後深草天皇
天皇ハ父後嵯峨天皇ノ意ニ従テ皇位ヲ弟亀山天皇ニ傳フ

第九十代
亀山天皇
天皇ハ父後嵯峨天皇ノ意ニ従テ兄後深草天皇ノ譲ヲ受ク、而シテ後コレヲ子世仁親王（後宇多天皇）ニ傳フ、亦後嵯峨天皇ノ意ニ従フナリ

第九十一代
後宇多天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ従テ、皇位ヲ従兄弟伏見天皇ニ傳フ

第九十二代
伏見天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ従テ、従兄弟後宇多天皇ノ皇太子ト為リ、遂ニ皇位ヲ継承ス

第九十三代
後伏見天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ従テ、皇位ヲ再従兄弟後二條天皇ニ



傳フ

第九十四代
後二條天皇

天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ従テ、再従兄弟後伏見天皇ノ譲ヲ受ケ皇位ヲ継承ス

第九十五代
花園天皇

天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ従テ再従兄弟後二條天皇ノ皇太子トナリ、遂ニ皇位ヲ継承ス

第九十六代
後醍醐天皇

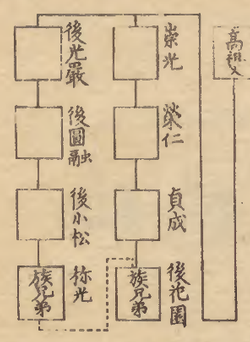
天皇ハ北條高時ノ奏スル所ニ従テ、再従兄弟花園天皇ノ譲ヲ受ケ皇位ヲ継承ス

邦良親王

親王ハ北條高時ノ奏スル所ニ従テ、叔父後醍醐天皇ノ皇太子トナル、後醍醐天皇在位ノ中ニ薨ズ

第九十七代
後村上天皇

〇族兄弟ノ後ヲ族兄弟ノ継承セシ例



第九十八代
後亀山天皇

天皇事故アリテ皇位ヲ後小松天皇ニ傳フ

良泰親王

親王立テ皇太子トナル、事故アリテ皇位ヲ継承セズ

不正位
光厳天皇

不正位
光明天皇

第九十九代 物本正位 後正位
後小松天皇

天皇事故アリテ後嵯峨天皇五世ノ孫後亀山天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、天皇ハ後嵯峨天皇七世ノ孫ナリ

不正位
崇光天皇

不正位
後光厳天皇

不正位
後圓融天皇

第百代
稱光天皇

天皇皇子無シ

崇光天皇子
榮仁親王

貞成親王

○祖父ノ後ヲ嫡孫ノ継承セシ例

第百三代
後花園天皇
天皇ノ族兄弟称光天皇崩ズ皇子無シ、天皇因テ皇位ヲ継承ス

第百四代
後土御門天皇

第百五代
後柏原天皇

第百六代
後奈良天皇

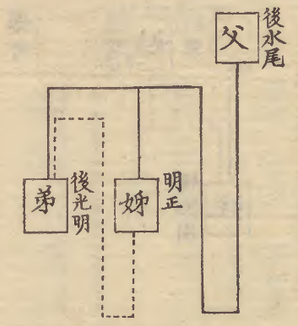
第百七代
正親町天皇

第百八代
誠仁親王
親王ハ父正親町天皇在位ノ中ニ薨ズ、故ニ皇位ヲ継承セズ

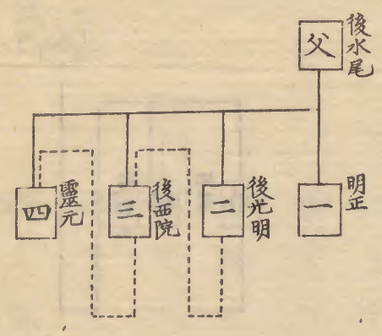
第百九代
後陽成天皇
天皇ハ父誠仁親王薨ゼシヲ以テ、故ニ、祖父正親町天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、嫡孫承祖ナリ

第百十代
後水尾天皇
天皇萬機ニ倦ミテ皇位ヲ譲ラントス、皇子アリ先ダチテ薨ズ、故

○姉ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



ヲ以テ皇女興子内親王明正天皇ニ傳フ

第百八代
明正天皇
主
父後水尾天皇皇子ノ薨ゼシヲ以テ皇位ヲ天皇ニ傳フ

第百九代
後光明天皇
天皇ハ父後水尾天皇譲位ノ後生ル、姉明正天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、天皇崩ズ皇子無シ

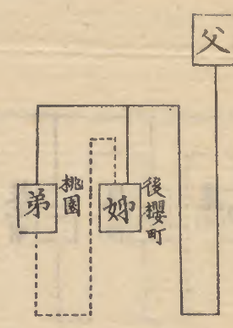
第百十代
後西院天皇
天皇ノ兄後光明天皇崩ジテ皇子無シ、故ヲ以テ天皇皇位ヲ継承ス、天皇皇子アリ而シテ皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ弟ニ傳フ、其ノ所以如何ナルヲ知ラズ

第百十一代
靈元天皇
天皇ハ兄後西院天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス

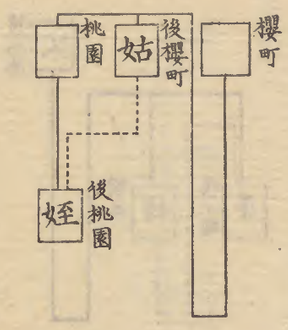
第百十二代
東山天皇

第百十三代
中御門天皇

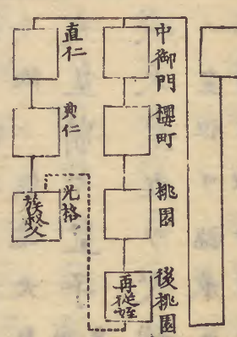
○弟ノ後ヲ姉ノ継承セシ例



○姑ノ後ヲ姪ノ継承セシ例



○再従姪ノ後ヲ族叔父ノ継承セシ例



第百十五代
櫻町天皇

第百十六代
女主
後櫻町天皇

天皇ノ弟桃園天皇崩ジテ、皇子年未ダ長ゼズ、天皇群臣ノ勧進ニ従テ皇位ヲ継承シ、以テ桃園天皇ノ皇子ノ長ズルヲ竢ツ

第百十五代
桃園天皇

天皇ハ父櫻町天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、天皇崩ズ時ニ皇子英仁親王ニテ即チ年未ダ長ゼズ後桃園天皇ナリ

第百十七代
後桃園天皇

天皇ハ姑後櫻町天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、天皇崩ズ皇子無シ

直仁親王

典仁親王

第百十六代
東山天皇曾孫
光格天皇

天皇ハ再従姪後桃園天皇ノ遺詔ニ従テ皇位ヲ継承ス

第百十九代
仁孝天皇

第百二十代
孝明天皇

第百廿一代
今上

女主ノ皇位ヲ継承セシ大意

皇位ノ継承ハ男子コレヲ承ク是恒典ナリ、女子ノコレヲ承クルハ時ニ事故アリテ已ムコトヲ得ザルニ出デ、而シテ必ズ竢ツコトアルナリ、其ノ竢ツコトアリトイフハ何ゾ、其ノ立ツベキ皇子アリト雖ヘドモ、年尚幼ケレバ其ノ長ズルヲ竢ツト、皇子年長ズト雖ヘドモ事故アリテ其ノ時ノ至ルヲ竢ツトナリ、故ニ今其ノ大意ヲ略記シテ以テ捷覧ニ備フ

推古天皇　皇極天皇　持統天皇　元明天皇
元正天皇　孝謙天皇　明正天皇　後櫻町天皇

本邦ニ於テ皇女女王ノ皇位ヲ繼承セシコトハ額田部皇女ニ始マル、額田部皇女ハ欽明天皇ノ皇女ニシテ、箭田珠勝大兄皇子、敏達天皇、用明天皇ノ妹、穴穂部皇子、崇峻天皇ノ姉ナリ、箭田珠勝大兄皇子ハ欽明天皇ノ在位ノ中ニ薨ズ、敏達天皇因テ皇位ヲ繼承ス、敏達天皇崩ズ、皇子押坂彦人大兄皇子年幼クシテ父ノ後ヲ嗣グコト能ハズ、用明天皇因テ代リ立ツ○本邦ノ制中世ニ至テ天皇太子年未ダ長セズト雖モ、群臣勸進シテ之ヲ立テ、大臣ノ中一人萬機ヲ摂スルノ典アリ、上古ハ然ラズ、萬機ヲ親決スルコト能ハザレバ、皇位ヲ繼承セザリシナリ、故ニ敏達天皇崩シテ用明天皇立ツ、亦當然ノ理ナリ用明天皇崩ズ、皇子厩戸皇子年幼クシテ父ノ後ヲ嗣グコト能ハズ、崇峻天皇立ツ穴穂部皇子ハ故アリテ立タズ○用明天皇崩ジテ皇子厩戸皇子ノ例ニ同ジ、ノ皇位ヲ繼承セザリシ故ハ、押坂彦人大兄皇子立ツベシ、穴穂部皇子順序ヲ以テイハバ宜シク穴穂部皇子ハ妹額田部皇女ノ意ニ適セズ、群臣モ亦素行ノ修ラザルヲ以テノ故ニ之ヲ奉戴セズ、是ニ於テ崇峻天皇立ツ崇峻天皇蘇我馬子ニ弑セラル、崇峻天皇皇子アリ群臣之ヲ奉戴セズ額田部皇女ヲ勸進ス、皇女因テ皇位ヲ繼承ス、是ヲ推古天皇トイフ、天皇時ノ至ルヲ竢テ、寶位ヲ厩戸皇子ニ傳ヘント欲スルコトハ、皇子ヲ立テ、皇太子ト為スニテ瞭然タリ

○崇峻天皇崩ズ皇子蜂子皇子アリ、群臣コレヲ奉戴セズ額田部皇女ヲ奉戴シ皇位ヲ繼承セシコトヲ勸進ス、額田部皇女遂ニ皇位ニ即ク、是ノ時ニ當テ敏達天皇ノ皇子押坂彦人大兄皇子アリ、又用明天皇ノ皇子厩戸皇子アリ、共ニ先代ノ嫡子ニシテ殊ニ押坂彦人大兄皇子ハ日嗣皇子ナリ、皇統ノ傳コヽニ及バズシテ額田部皇女立ツ後世疑ナキコト能ハザレバ、父ノ弟皇位ヲ繼承ス、是ヲ推古天皇トイフ、天皇時ノ至ルヲ竢テ、寶位ヲ厩戸皇子ニ傳ヘンクシテ萬機ヲ決スルコト能ハズ、因テ按ズルニ父天皇崩ズ子日嗣皇子アリ、而レドモ年幼ナレバ、父ノ弟皇位ヲ繼承ス、是ヲ推古天皇トイフ、天皇時ノ至ルヲ竢テ、寶位ヲ厩戸皇子ニ傳ヘンコレ上古ノ習慣ニシテ世人モ亦以テ可トスルコトナリ、押坂彦人大兄皇子ハ日嗣皇子ナリトイヘドモ而レドモ叔父用明天皇立ツニ及デハ、用明天皇ノ後ヲ必ズ受クベキ皇子ニ非ラズ是日嗣皇子ト皇太子ト差別アリテ少異アル所以ナリ、故ニ日嗣皇子ハ年未ダ長ゼズシテ父天皇崩ズレバ、其ノ名ハ大兄皇子ノ稱ヲ以テ皇位ヲ繼承スベキ者ト認メ、皇太子ハ然ラズ皇子ノ皇太子ト稱スル者ハ、世人必ズ父天皇崩ズトイヘドモ、皇子

必ズ皇位ヲ継承スル者ト認ム、故ニ事故アルニ至テハ皇太子ノ位ヲ廢シ、太子ヲ改メテ皇子ト称ス、大兄皇子ハ後主ノ更ニコレヲ立ツルニ及テハ皇太子某ノ大兄皇子ト重ネテ称スル所謂皇太子中大兄皇子（天智帝即チ是ナリ）、因テ又按ズルニ日嗣皇子トイヘドモ、其ノ立ツ時ヲ過タセバ、皇子ハ普通ノ皇子ニ等シ、押坂彦人大兄皇子ノ遂ニ立タザリシ所以モ亦以テ知ルベキナリ、厩戸皇子ハ固ヨリ日嗣皇子ニ非ラズ、又父用明天皇崩ゼシ時ハ年幼クシテ萬機ヲ決スルコト能ハズ、其ノ立タザリシモ亦ナリ、敏達用明崇峻ノ三天皇兄弟相継テ皇位ヲ継承ストイヘドモ、而レドモ其ノ崩ズルニ至テ、其ノ皇子ノ并ニ皆其ノ後ヲ受ケザリシモ亦相似タリ、後世ノ人此ニ注意シテ以テ、當時ノ情実ヲ察セズバアルベカラザルナリ、當時親ラ萬機ヲ決スルニ堪ヘテ皇位ヲ継承スベキ者ハ額田部皇女ニ非ラズシテ誰ソヤ、實ニ已ムコトヲ得ザル、推古天皇紀ヲ按ズルニ、額田部皇女乃チ皇位ヲ継承シテ厩戸皇子ヲ皇太子ト為ス、知ヌベシ天皇時ノ至ルヲ俟テコレヲ傳ヘント欲スルコトヲ

寶女王ハ敏達天皇ノ曾孫ニシテ、茅渟王ノ女孝徳天皇ノ姊ナリ、立チテ舒明天皇ノ皇后ト為ル、舒明天皇崩ズ、天皇皇子數人アリ、中ニ古人大兄皇子中大兄皇子俱ニ日嗣皇子ナリ

○大兄皇子ト稱スル者ハ、皆日嗣皇子ノ係ニ辨ズ

而レドモ二皇子俱ニ立タズ、皇后寶女王立ツ、是ヲ皇極天皇トイフ、皇極天皇ノ立ツヤ、其ノ生ム所ノ日嗣皇子中大兄皇子ノ年長ズルヲ俟チシナラン

○舒明天皇崩ズ、日嗣皇子古人大兄皇子理宜シク立ツベシ、而シテ立ダズ皇后寶女王ノ生メル所ニ非ラズ、而シテ其ノ立タザリシ所以ハ、皇子ト能ハズ、因テ按ズルニ古人大兄皇子ハ春秋已ニ富メリ萬機ヲ決スルニ難カラズ、而シテ其ノ立タザリシ所以ハ、皇子ノ生ム所ニシテ、其ノ性モ亦賢ト稱スル蘇我馬子ノ女法提郎女ノ生メル所ニ非ラズ、中大兄皇子ハ皇后ノ生ム所ニシテ、天資聰明ナリ群臣之ヲ奉戴ス、而レドモ皇子年未タ長ゼズ、是ニ於テ群臣ニ皇子ノ中ヲ擇ビ勸進セシテ皇后ヲ勸進セシ而シテ政ヲ為スト、其ノ非凡ナルコトハ日本紀ニ所見ナシ、因テ又考フルニ、此ノ二説ノ外ニ出ヅベカラズ是ニ由テ之ヲ按ズ、但群臣ノ皇后ヲ勸進セシコトハ、實ニ已ムコトヲ得ザル情實ヲ觀レバ寶女王ノ皇位ヲ継承セシハ、實ニ古人大兄皇子ハ日嗣皇子ノ地位動カズシテ尋常ノ皇子ノ如ク、中大兄皇子ハ、仍テ故ノ如クナルコト、前條ニ辨ゼルガ如シ

既ニシテ蘇我入鹿ノ事アリ、天皇因テ皇位ヲ中大兄皇子ニ傳ヘズシテ弟孝徳天皇ニ傳フ

○日嗣皇子中大兄皇子立タズシテ天孝徳天皇ノ皇位ヲ継承セシコトハ、中臣鎌足ノ策ニ從フナリ、事ハ日本書紀ニ詳ナリ

孝

徳天皇崩ズ、皇極天皇再祚ス是ヲ齊明天皇トイフ○孝徳天皇崩ズ、中大兄皇子宜シク立ツベシ、而ルニ皇子ノ立タズシテ母天皇重祚スル所以ハ、皇子親ラ謙遜シテ母ニ隨フノ意ヲ表セシナラン女主再タビ祚ニ登リシコトハ天津日嗣高御座ノ御業ハ重事ナリ、皇太子中大兄皇子因テ皇位ニ即カズ、母天皇再タビ皇位ニ即キシナラン○神皇正統記中巻ニ云ク、我朝は皇極の重祚を齊明と号し、孝謙ろ重祚を稱徳と号す、異朝は昏れろ、是天日嗣を重くするゆゑなり、先賢の義さぞ、めてよしあるふや云云皇太子と申い中大兄皇子の御事なり、孝徳の御代よりは太子ふ立給ふ、此御時ハ摂政シ給ふと見えとり云トアリ、天智天皇皇位ヲ継承セズシテ、御母ヲ奉戴シ再タビ祚ニ登ラシメ、已萬機ヲ輔翼セシコト此ノ文ニ據テ見ルベキナリ皇極天皇再祚シテ而シテ後時ノ至ルヲ竢テ寶位ヲ中大兄皇子ニ傳ヘント欲スルコトハ、皇子ヲ立テ、皇太子ト為スニテ瞭然タリ鷗野讃良皇女ハ天智天皇ノ皇女ニシテ、元明天皇弘文天皇ノ姊ナリ、立チテ天武天皇ノ皇后ト為ル、天武天皇崩ズ皇子草壁皇子アリ、時ニ年廿五歳ナリ立タズ、皇子ノ母皇后鷗野

讃良皇女立ツ、コレヲ持統天皇トイフ、天皇ノ立ツヤ抑、所以アリ○此ノ事ハ下ニ辨ズ亦以テ已ムコトヲ得ザルニ出ヅルナリ○天武天皇崩ズ、皇子草壁皇子理宜シク立ツベシ、而ルヲ皇后鷗野讃良皇女立ツ、必ズ事故ナキヲ得ベカラザルナリ、因テ按ズルニ天武天皇ハ草壁皇子ノ外ニ庶子数人アリテ、中ニ父ノ後ヲ継承セント冀望スル者ナキニ非ズ、皇后因テ之ヲ慮リ已立テ皇位ヲ継承シ、而シテ後草壁皇子ニ傳フルノ意ナリシ天武天皇崩セシ歳大津皇子ノ反逆ノ事アリ以テ見ルベキナリ

阿閉皇女ハ天智天皇ノ皇女ニシテ、持統天皇ノ妹弘文、天皇ノ姊ナリ、立チテ皇太子草壁皇子ノ妃ト為リテ文武天皇ヲ生ム、持統天皇皇位ヲ文武天皇ニ傳フ、文武天皇崩ズ皇子首皇子聖武天皇アリ時ニ年尚幼シ、母阿閉皇女立テ皇位ヲ繼承シ、以テ首皇子ノ長ズルヲ竢ツ、實ニ已ムコトヲ得ザルナリ、是ヲ元明天皇トイフ○文武天皇疾アリ其ノ起ツベカラサルヲ計リ、皇位ヲ母阿閉皇女ニ讓ラントス、阿閉皇女固辞ス、天皇崩ズ、阿閉皇女因テ已ムコトヲ得ズシテ立テ皇位ヲ継承シ、以テ孫首皇子ノ長ズルヲ竢ツコト

ハ、已ムコトヲ得ザルナリ

氷高内親王ハ天武天皇ノ孫ニシテ草壁太子ノ子文武天皇ノ姊ナリ、文武天皇崩ズ、皇子首皇子年尚幼シ、元明天皇乃ナ立チ、以テ首皇子ノ長ズルヲ俟ツ、元明天皇疾アリ萬機ヲ決スルコト能ハザルニ至テ、皇位ヲ首皇子ニ傳ヘント欲ス年未ダ長ゼズ、故ヲ以テ首皇子ノ姑氷高内親王ニ傳ヘ、以テ其ノ姪ノ長ズルヲ俟タシム、氷高内親王立ツ是ヲ元正天皇トイフ、亦已ムコトヲ得ザルナリ實ハ、元明天皇紀元正天皇紀及ビ○元正天皇ノ皇位ヲ繼承セシ情水鏡等ニ見エタリ就テ見ルベシ

阿倍内親王ハ聖武天皇ノ皇女ニシテ皇子基王ノ姊ナリ、聖武天皇皇位ヲ皇子ニ傳ヘント欲シ、立テ、皇太子ト為ス皇太子薨ズ、聖武天皇因テ已ムコトヲ得ズ、阿倍内親王ヲ立テ、皇太子ト為ス、遂ニコレニ皇位ヲ讓ル、阿倍内親王立ツ是ヲ

孝謙天皇トイフ、孝謙天皇立ツニ及テ、天皇道祖王ヲ以テ皇太子ト為ス○天武天皇ノ孫ニシテ新田部親王ノ子ナリ○孝謙天皇ハ子無キコト必セルヲ以テ、聖武天皇命ジテ道祖王ヲ立テ皇太子タラシメシナリ父聖武天皇ノ皇子無キヲ以テ、皇位ヲ皇女ニ傳フト雖ヘトモ、而レドモ其ノ恒典ニ非ラザルヲ以テ、乃ナ道祖王ヲ以テ立テ、其ノ皇太子ト為シ、時ノ至ルヲ俟テ之ニ皇位ヲ繼承セシム以テ推古天皇以来ノ女主ノ跡ニ倣フナリ○女主ノ跡ニ倣フトハ道祖王ヲ以テ皇太子ト為シテ、孝謙天皇ヲシテ時ノ至ルヲ俟テ皇位ヲ傳ヘシメント欲スルナリ聖武天皇崩ズ、孝謙天皇皇太子道祖王ノ意ニ適セザルヲ以テ之ヲ廢シ、代フルニ大炊王ヲ以テシ、遂ニ之ニ皇位ヲ讓ル、是ヲ淳仁天皇トイフ、而シテ後淳仁天皇モ亦孝謙天皇ノ意ニ適セズ之ヲ廢ス、因テ再祚ス、所謂ル稱德天皇是ナリ、天皇ノ再祚スルヤ時ニ代リ立ツベキ者無シ、亦已ムコトヲ得ザルナリ○孝謙天皇初ノ皇太子道

祖王ヲ廢シ、後淳仁天皇ヲ廢ス、諸王尚アリトイヘドモ、立テ皇太子ト為スベキコト是ニ至テ甚ダ難シ、其ノ情實推考シテ異知ラル、孝謙天皇ノ再祚スルヤ實ニ已ムコトヲ得ザルナリ

興子内親王ハ後水尾天皇ノ皇女ニシテ、高仁親王及其皇子、後光明天皇、後西院天皇、靈元天皇ノ姊ナリ、後水尾天皇皇位ヲ高仁親王ニ傳ヘント欲ス、高仁親王薨ズ、而シテ皇子某生ル亦薨ズ、天皇因テ皇位ヲ興子内親王ニ讓ル、興子内親王立ツ、是ヲ明正天皇トイフ、後水尾天皇ノ皇位ヲ辭セシコトハ、衰老ニ依ルニ非ラズ萬機ニ堪ヘザルナリ（○事ハ卷八ニ委シ）後水尾天皇讓位ノ後、後光明天皇、後西院天皇、靈元天皇ヲ生ム、後水尾天皇ノ皇位ヲ讓リシハ、後光明天皇以下三天皇ヲ生マザリシ前ニシテ、實ニ已ムコトヲ得ザリシナリ（○高仁親王ハ寛永三年十一月十三日生ル、同月廿五日親王宣下アリテ儲君ト為ル、同五年六月十一日薨ズ、年三歳ナリ、某皇子ハ寛永五年九月廿八日生ル、若宮ト称ス、同年十月六日薨ズ、其ノ後顯子内親王生ル男ニ非ラズ、天皇因テ意ヲ決シテ皇位ヲ興子内親王ニ讓ルコトヲ得ザリシ）

智子内親王ハ櫻町天皇ノ皇女ニシテ桃園天皇ノ姊ナリ、桃園天皇崩ズ、皇子英仁親王（後桃園天皇）アリ年未タ長ゼズ、群臣相議シテ智子内親王ヲ奉戴シ以テ勸進ス、内親王因テ皇位ヲ繼承シ、以テ英仁親王ノ長ズルヲ俟ツ、是ヲ後櫻町天皇トイフ、亦已ムコトヲ得ザリシナリ（○桃園天皇崩ズ皇子英仁親王コト能ハズ、故ヲ以テ後櫻町天皇立ツ、已ムコトヲ得ザルノ情實以テ見ルベキナリ）本邦ニ於テ女主ノ皇位ヲ繼承セシ者、推古天皇ヨリ後櫻町天皇ニ至テ總ベテ八主ナリ、其ノ皇位ヲ繼承スルヤ皆已ムコトヲ得ザルニ出ヅルナリ

皇位繼承篇卷十終

内閣文庫
内閣文庫
内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan